

令和2年度  
東金市立保育所・認定こども園  
自己評価  
(所・園内研修まとめ)

全所・園共通テーマ

**「生きる力を育む」**



# もくじ

保育理念・方針・めざす子ども像	1
令和2年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画	2
所内研修まとめ（第1保育所）	7
所内研修まとめ（第2保育所）	15
所内研修まとめ（第3保育所）	19
所内研修まとめ（第4保育所）	33
園内研修まとめ（福岡こども園）	45

各所・園のまとめ資料は、おおむね次のような構成となっています。

○表紙

○各所・園のサブテーマ（子どもの姿・保育者の願い・仮説・手立て・研修方法等）

○研究事例

※各所・園のサブテーマや研究事例によっては、その一部（または全て）を非公表とし、本公表資料から除いています。

○巡回指導を受けての課題

○所・園内研修の成果と課題

○自己評価に関する観点からの評価

【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

【2】計画に基づく評価

【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

○研修の総まとめ

## 保育理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

## 教育・保育目標

### 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

## 方針

- 「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。
- 子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるよう努めます。
- 同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。
- 子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。
- 子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。
- 地域における子育ての支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。
- 一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。
- 学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

## めざす子ども像

- \*仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。
- \*思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。
- \*自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。
- \*あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

<b>基本理念</b> 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	<b>子どもの教育及び保育目標</b>	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
		2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達とかわりながら遊ぶ楽しさを知る。
		4歳児	友達とのかかわりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
<b>めざす子ども像</b> ○仲良く元気に遊ぶ子・・・身近な人と十分にかかわり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなで挑戦する子・・・見通しを持って活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	<b>第4保育所の教育・保育目標</b> 「健やかな心と丈夫な体」～心も体も健康な子ども～	<b>行事のねらい</b> 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢とのかかわりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
○子ども一人ひとりの気持ちを尊重し個性を大切にしながら接していくようにする。また、子どもたちが居心地の良い環境となるように配慮していく。自分も相手も大切に思えるように自己肯定感を育てていく。	○職員が発達段階の理解をし、年齢に応じた発達が出来るような環境を整えたり働きかけをしたりする。個人差もあるのでその点も考慮し進めていく。また、職員間の共通理解を十分に行っていく。	○幼児と0,1,2歳児との交流を意識的に行っていく。遊びの場面では異年齢の交流が無理なく出来るよう、安全面に配慮した環境設定をしていく。	○健康で安全に過ごせる環境を整えていき、保育士一人一人が危機管理の意識を持つ。年齢にあわせて子ども達にも自分の身を守るという意識が持てるようにする。園外の危険箇所等の確認を行い、職員間が連携し、危機管理に対する共通理解を持って取り組んでいく。また、体を動かす活動を積極的に取り入れたり、散歩に出かけたり、丈夫な体作りを心がける。	○年齢に合わせて食べ物の働きを子ども達に知らせていきバランスよく食事をすることの大切さを伝える。旬の食べ物に興味を持てるような環境や、楽しく給食やおやつが食べられるような工夫を給食室と協力しあいながら進めていく。	○「共に育つ」という気持ちで保育所全体で共通理解を持ち、それぞれの個性を大切にしながら持っている力が最大限に発揮できるように援助していく。子ども達と共に考え共に歩んでいき、様々な経験ができるようにしていく。

教育課程・保育課程

		年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
<b>生命の保持</b>  <b>養護</b>  <b>情緒の安定</b>			○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら、薄着の習慣を付け丈夫な体作りをしていくようにする。 ○スキップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地良い生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指差すものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を得られるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるよう援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていくようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達とかわりながら遊ぶ楽しさを味わう。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感を持ち、意欲的に活動できるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む。みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。	○体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む。みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しを持って活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	○保育所での様子を言葉で伝えたり写真などの掲示をしたり、日中の様子を伝えることで安心して預けられるようにしていく。子どもが安定して過ごせるように家庭での様子も聞くようにし何かあった時には連携をとりながら問題解決をしていく。 <b>小学校への円滑な接続に向けた保育</b> ○子ども達には小学校とほどんどころであるか伝え期待を持って就学が迎えられるようにする。小学校との交流会を持ったたり子どもの様子を伝え合ったりしていく。
				○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味を持つ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自らかかわろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○自我が芽生え、友達とのかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものにかわり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○十分に体を動かし、道具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達とのかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものにかわり、好奇心を持つ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○いろいろな遊びの中で必要なのを友達と一緒に考えたり、工夫したりして作り、遊びに生かして使う。 ○身の近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○気分のいい遊びの中で必要なのを友達と一緒に考えたり、工夫したりして作り、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○身近な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	
<b>健康</b>  <b>人間関係</b>  <b>環境</b>  <b>言葉</b>  <b>表現</b>			○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちを欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感や不安、快・不快感を表す。	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味を持つ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自らかかわろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○自我が芽生え、友達とのかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものにかわり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○身の近な環境の中で必要なのを友達と一緒に考えたり、工夫したりして作り、遊びに生かして使う。 ○身の近な環境の中で必要なのを友達と一緒に考えたり、工夫したりして作り、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○身近な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	○保育所での様子や家庭での様子などについて話し合ったり、写真や動画を見たりして、子どもの成長や生活の様子を確認し、安心感や満足感を得られるようにしていく。 <b>地域との連携を大切に教育・保育</b> ○散歩に出かけ地域の方々やあそび場を交わしたり夕涼み会など行事を知らせ交流が持てるようにする。また、世代間交流会を開催することで交流が持てるようにする。 <b>保護者及び地域の子育て家庭への支援</b> ○子育て支援事業として園庭開放を実施し、地域の子育て中の親子が気軽に保育所に来所できるようにする。また、育児に悩みを抱える保護者には話を聞いてあげることで育児不安が少しでも解消できるようにしていく。	
		<b>研修・研究計画</b> <b>研究テーマ</b> <b>生きる力を育む</b> ○自分から進んで遊べる姿が見られるようになってきた中で、“自分を見て欲しい”という思いが強い子どもが多いことに気づき、一人一人の子どもと向かい合いながら、心の育ちを見つめていく。保育とはどのような保育なのかを探っていく。 <b>園の自己評価</b> 評価方法 年度末に自己評価 ○一人一人の子どもの姿を大切に受け止め、自己肯定感を育みながら保育実践を進めることができた。ポートフォリオの作成等を積極的に進めていくことで、保育の可視化に繋がり保護者理解も深まった。保育士間の連携も深まり、職員全体で子ども達を保育することができたが、異年齢の交流の機会が少なく、次年度、どのような形で取り組んでいくかの検討の必要性がある。							

<b>基本理念</b> 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	<b>0歳児</b> 一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
	<b>1歳児</b> 安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
	<b>2歳児(満3歳児)</b> 基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
	<b>3歳児</b> 基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達とかかわりながら遊ぶ楽しさを知る。
	<b>4歳児</b> 友達とかかわりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
<b>めざす子ども像</b> ○仲良く元気に遊ぶ子・・・身近な人と十分にかかわり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しを持って活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	<b>5歳児</b> 生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。
<b>第4保育所の教育・保育目標</b> 「健やかな心と丈夫な体」～心も体も健康な子ども～	<b>子どもの教育及び保育目標</b>
●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：00 ●保育所：基本保育時間→7：30(8：00)～18：30(16:00) *延長保育時間→7:00～、～19:00 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮したかわりと見通しを持って子どもと接する。	<b>行事のねらい</b> 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢とのかかわりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
それぞれの家庭環境で育ち、集団生活をしていく中で、「そのらしさ」を発揮出来る様に、一人一人に寄り添い、言葉や心の動きを温かく受け止めていく。	一人一人の発達を踏まえ、出来る様になった事、出来る様になるであろう事の見通しを持ち働きかけ、発達を促していく。	異年齢とのかかわりの中から、思いやりの心や尊敬の心を身に付けられる様、意図的なかかわりを持ち、次第に自然にかかわっていきける環境を整える。	心も体も共に健康である様、いろいろな経験が出来る環境を整える。また、職員の共通理解の基、遊具の点検・遊び方を知らせると同時に子ども自らの気づきも大切に、安全に配慮する。また、散歩など園外に出る時には、交通ルールを知らせ、安全に歩けるようにすると共にお散歩カード、安全旗を利用する。	「食」の中から栄養素と五感情報を同時に取り込む。また、栽培や収穫を通し、食への関心を高め、たくさん遊んで空腹を感じ、バランス良く楽しく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も考慮する。	どのような個性を持つ子どもも皆同じ仲間という認識の下、加配のあるクラスでも担当制とせず園全体で育てていくという職員の共通理解を図っていく。

教育課程・保育課程

		0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
<b>養護</b>	<b>生命の保持</b>	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら、薄着の習慣を付け丈夫な体作りをしていくようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○嘔吐や指差すものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して自分の気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていくようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感を持ち、意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	0. 1. 2歳児では、毎日の連絡帳でのやりとりや、登降所時に保護者と情報を共有する等密に連絡をとりあい保護者との信頼関係構築、子どもの理解へと繋げる。 3・4・5歳児では、その日の出来事を掲示したり登降所時に様子を伝えたりする。また、保育所での子どもの様子を可視化し育ちや学びの情報を発信する。
	<b>情緒の安定</b>	○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を得られるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しむようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達とかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものにかかわり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○体の使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達とかかわって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気をつける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しを持って活動する。	<b>小学校への円滑な接続に向けた教育・保育</b> 小学校との連携を図り、卒園までに育てて欲しい姿を共有する等し、円滑に小学校生活が送れるようにする。また、アブローチャリキュラムを作成し、スタートカリキュラムとの整合性を図り、接続に向けて考慮する。
<b>教育及び保育</b>	<b>健康</b>	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味を持つ。	○保育者が芽生え、友達とかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。	○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。	○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。	○身近な環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	<b>地域との連携を大切に教育・保育</b> 世代間交流と題し地域の2つのお年寄りグループとの触れ合いの場を設け地域との関わりを大切にしていく。
	<b>人間関係</b>	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。	○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自らかかわろうとする。	○身の回りの様々なものにかかわり、好奇心を持つ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。	○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	<b>保護者及び地域の子育て家庭への支援</b> 毎週火曜日に園庭開放を行い未就園児とその保護者が集える場を提供。遊びの発信をする。(令和2年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため実施することができなかった)	
	<b>環境</b>	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良い考えを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	<b>研修・研究計画</b> <b>研究テーマ</b> 「生きる力を育む」 ・市内保育所共通テーマ「生きる力を育む」。第2保育所サブテーマ「子どもの育ちを保障する～保育者の関わり方～」と題し、所内研修を行い、年度末に市内5ヶ所での発表を行う。 ・年度末に市内研究発表 ・山武支会及び千葉県保育協会研修参加(令和2年度は、コロナウイルス感染症感染拡大防止のため研修が中止となり参加できなかった)
	<b>言葉</b>	○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良い考えを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	<b>園の自己評価</b> <b>評価方法</b> 所内話し合い
<b>表現</b>	○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つくり遊びを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良い考えを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	所内研修を基に話し合いを持ち、成果・課題を見出し次年度へとつなげる。また、ホームページにて取り組みを公開する。	

<b>基本理念</b> 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	<b>教育・保育目標</b> 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	<b>子どもの教育及び保育目標</b>	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
			1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
			2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
			3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達とかわりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達とのかかわりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
<b>めざす子ども像</b> ○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分にかかわり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめずに挑戦する子・・・見通しを持って活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	<b>第3保育所の教育・保育目標</b> 豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ。	<b>行事のねらい</b> 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割		

特に配慮すべき事項

<b>一人一人を大切に育てる教育・保育</b> 子どもの人権を十分に配慮し、一人一人の子どもが主体的活動ができるよう、子どもの気持ちに寄り添った保育を行っていく。	<b>発達の連続性に配慮した教育・保育</b> 一人一人の発達状態に合った保育を定期的、継続的に把握し保育を行っていく。	<b>異年齢とのかかわりを大切に育てる教育・保育</b> 幼児組は、総割り保育を行う中で、異年齢児との生活や遊びを通して他者への思いやりを育むと共に、乳児組、幼児組も関わる機会を多く持ち、思いやる気持ちを大切に育ていく。	<b>子どもたちの健康と安全を守る教育・保育</b> 全職員が相互に連携し、健やかな生活の確立を進めていく。また、事故防止のため、定期的に安全点検、訓練を全体で行っていく。衛生面には、十分配慮し、新型コロナウイルス感染拡大防止に保育所全体で対応していく。	<b>食育を推進する教育・保育</b> クッキングや菜園作りを通して、美味しく食することで、食への興味・関心を高め感謝して食べるよう働きかけ、また、保育者や友達と一緒に食べることを楽しむ。	<b>インクルーシブな教育・保育</b> 家庭や関係機関と連携した支援を行うため、障害を理解し、職員全体で共通理解の下、保育所全体で理解を進めていく。
--	---	---	--	---	--

教育課程・保育課程

		0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児
<b>養護</b> 生命の保持 情緒の安定	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら、薄着の習慣を付け丈夫な体作りをしていけるようにする。 ○スキップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地良い生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しむようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を得られるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちしながら、友達とかわって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感を持ち、意欲的に活動できるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感に十分に味わえるようにする。	○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動しようとする。
	<b>健康</b> <b>人間関係</b> <b>環境</b> <b>言葉</b> <b>表現</b>	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。	○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自分がかかわるとする。 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○十分に体を動かし、道具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達とのかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものにかかわり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○身近な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。
		<b>地域との連携を大切に育てる教育・保育</b> 世代間交流会やすこやか親睦会に参加し、地域との交流を大切に育てる。また、夕涼み会や運動会など地域の方々を招き、楽しく参加できるように取り組んでいく。		<b>保護者及び地域の子育て支援</b> 子どもを共感し、子育ての喜びを感じられるように子育て支援に努める。また、地域の子育て支援として、週1回の園庭開放等を通して、地域性や専門性を活かして子育てママとの関りを増やしていく。		<b>研究・研究計画</b> 研究テーマ 生きる力を育む 「“やってみたい・やってみよう・考えよう”からのつながる保育」のサブテーマを基に、エピソード記述を持ち寄り年4回の所内研修会を行う。	
		<b>園の自己評価</b> 評価方法 保育所職員間の話し合い コロナ禍でできないこともあったが、衛生面、安全面に考慮しながら、環境設定を工夫し保育が展開できるような環境作りを実施した。また、年齢別の活動を重視したことで、異年齢児とのかかわりが少なかったため、遊びを通してかわりか持てるように心掛けていきたい。職員全体で所内研修に取り組むことで、共通理解を深める良い機会となった。					

<b>基本理念</b> 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	0 歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
	1 歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
	2 歳児 (満3 歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
	3 歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達とかわりながら遊ぶ楽しさを知る。
	4 歳児	友達とのかかわりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
<b>教育・保育目標</b> 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	5 歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。
<b>めざす子ども像</b> ○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分にかかわり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなで挑戦する子・・・見通しを持って活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	<b>子どもの教育及び保育目標</b>	
<b>第4保育所の教育・保育目標</b> 「健やかな心と丈夫な体」～心も体も健康な子ども～	<b>行事のねらい</b> 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割      ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割      ④健康と安全を守る役割      ⑤保育を厚くする役割	

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にすること教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢とのかかわりを大切にすること教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
個々の家庭環境の違いを踏まえ、集団生活の中で、個性を認め、一人一人に寄り添い、言葉や心の動きを温かく受け止めていく。	一人一人の発達を踏まえ、出来る様になった事、出来る様になるであろう事の見通しを持ち働きかけ、発達を促していく。	遊びの中で異年齢間とのかかわりを持ち、思いやりの心や尊敬の心を身に付けられる様、子ども達同士が次第に自然にかかわっていきける環境を整える。	コロナウイルス感染症感染拡大防止から手洗い消毒を心掛ける。心も体も共に健康である様、いろいろな経験が出来る環境を整える。また職員との共通理解の基、遊具の点検・遊び方を知らせると同時に子ども自らの気づきも大切に安全に配慮する。また散歩など園外に出る時は交通ルールを知らせ安全に歩けるようにする。	「食」の中から栄養素と五感情報を同時に取り込む。また、栽培や収穫を通し、食への関心を高め、たくさん遊んで空腹を感じ、バランス良く楽しく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も考慮する。	どのような個性を持つ子どもも皆同じ仲間という認識の下、加配のあるクラスでも担当制とせず全体で育てていくという職員の共通理解を図っていく。どんなことにも優しい保育を心掛ける。

教育課程・保育課程

		0 歳児	1 歳児	2 歳児 (満3 歳児)	3 歳児	4 歳児	5 歳児	家庭との連携
<b>生命の保持</b> <b>養護</b> <b>情緒の安定</b>	<b>安全</b> ○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら、薄着の習慣を付け丈夫な体作りをしていくようにする。 ○スキップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地良い生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○囁きや指差すものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を得られるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	<b>安全</b> ○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しむようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自らの芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	<b>一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。</b> ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	<b>基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。</b> ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていくようにする。	<b>運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。</b> ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感を持ち、意欲的に活動できるようにする。	<b>体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。</b> ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	○12歳児では、毎日の連絡帳でのやりとりや登降所時に保護者と情報を共有する等密に連絡をとりあい保護者との信頼関係構築、子どもの理解へと繋げる。345歳児では、その日の出来事を掲示したり登降所時に様子を伝えたりする。また、保育所での子どもの様子を可視化(ポートフォリオ)し育ちや学びの様子を発信する。	
	<b>健康</b> ○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 <b>人間関係</b> ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 <b>環境</b> ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。 <b>言葉</b> ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味を持つ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自分にかかわらうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○自我が芽生え、友達とのかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに好奇心を持ち、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○気合の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢間とかわかることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気合の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しを持って活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	<b>小学校への円滑な接続に向けた教育・保育</b> 小学校との連携を図り、卒園までに育てて欲しい10の姿を共有し、円滑に小学校生活が送れるようにする。	
<b>地域との連携を大切にすること教育・保育</b> 地域の社会福祉協議会の方と連携し、世代間交流を行いお年寄りとの触れ合いの場を設けたり、公民館に出向いて遊戯を披露する「すこやか親睦会」に参加したりする。保育所つうしんを公民館に掲示する。								<b>保護者及び地域の子育て家庭への支援</b> 毎週木曜日に園庭開放を行い未就園児とその保護者が集える場を提供。遊びの発信をする。
<b>研修・研究計画</b> <b>研究テーマ</b>								<b>生きる力を育む</b> ・第4保育所サブテーマ「自己肯定感を育む保育を探る。」をもとに所内研修(年3回～4回事例研究を発表する)を行い、全職員で共通理解をはかる。 ・年度末に市内保育所の研究発表を行う。
<b>園の自己評価</b> <b>評価方法</b>								石井准教授の巡回指導の下、撮影されたデータをふり返りに使用し自分たちの保育の反省・評価を行った。所内研修や会議を行って改善点を話し合い共通理解を深めたことで子供達への対応に変化が出てきて、園全体で落ち着いた雰囲気のもと保育できるようになってきた。コロナ禍において行事の取り組みに課題は残る。

<b>基本理念</b> 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	<b>教育・保育目標</b> 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	<b>子どもの教育及び保育目標</b>	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
			1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
			2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
			3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達とかかわりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達とかかわりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
<b>園の教育・保育目標</b> 遊びは学び ～人とのつながりを通して～	●1号認定：基本保育時間 9:00～14:00 *預かり保育 14:00～16:30 ●2・3号認定：基本保育時間 標準認定7:30～18:30 短時間認定8:00～16:00 *延長保育時間 7:00～、～19:00 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮したかわりと見通しをもって子どもと接する。	<b>行事のねらい</b> 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割		

特に配慮すべき事項

<b>一人一人を大切に教育・保育</b> ・友達・保育者・地域の人々など、様々な人とのかわりながら、豊かな心、逞しく生きる力を育んでいく。	<b>発達の連続性に配慮した教育・保育</b> ・年齢に即した環境作りを心がけながら、発達の見通しを持って子どもにかかわり、年齢に応じた一人一人の発達を保障していく。	<b>異年齢とかかわりを大切に教育・保育</b> ・日々の保育の中で、無理のない異年齢の交流ができるようにしていく。また、意図的に機会を作りながら様々な年齢の存在を意識できるようにする。	<b>子どもたちの健康と安全を守る教育・保育</b> ・職員同士の連携を密に取りながら共通理解を深めるとともに、様々なことに自分で気づき行動できる子どもを育てていく。 ・健康な生活に必要な習慣や態度を育てる。	<b>食育を推進する教育・保育</b> ・食べる事の楽しさを実感するなど、豊かな食の体験を積み重ねながら“食べたい”という意欲を育てていく。	<b>インクルーシブな教育・保育</b> ・家庭や、専門機関との連携を図りながら、保育者の工夫・配慮によって、園児が共に認め合える関係をつくり、安心して周囲の環境と関わりながら発達していけるようにする。
--	--	--	--	---	--

教育課程・保育課程

		年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
<b>養護</b>	<b>生命の保持</b>		○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら、薄着の習慣を付け丈夫な体作りをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛情関係を深め、心地良い生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていくようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感を持ち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心をもち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	・保護者との日々の会話や、連絡帳、園での様子を伝える掲示等を通して、家庭と子ども園、それぞれの子どもの生活の様子を伝え合い、子ども達の望ましい発達を共有する。 <b>小学校への円滑な接続に向けた教育・保育</b> ・園児と児童の交流を通じて、小学校生活に安心感と期待感が感じられるような学びの接続を図る。
	<b>情緒の安定</b>		○喃語や指差すものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を得られるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達とかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものにかかわり、好奇心を持つ。	○保育者を仲立ちしながら、友達とかかわって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異なる年齢とかかわることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○危険な場や遊び方などを知り、安全に気をつける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しを持って活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	<b>地域との連携を大切に教育・保育</b> ・文化や伝統などに触れて、自分達の住む地域に一層親しみを感じ、豊かな生活経験をえられるようなかかわりを大切に <b>保護者及び地域の子育て家庭への支援</b> ・子育てに関する情報交換の場や交流の機会を設けるとともに、相談・支援を行うことで子どもの理解と保護者の育ちを支援する。
<b>教育及び保育</b>	<b>健康</b>		○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味を持つ。	○自我が芽生え、友達とかかわりの中で簡単なルールがあることを知る。	○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。	○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。	○身近な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。	
	<b>人間関係</b>		○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。	○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自らかかわろうとする。	○身の回りの様々なものにかかわり、好奇心を持つ。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。	○自分や友達の話を興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	
	<b>環境</b>		○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○保育者や気の合う友達の話に興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	
	<b>言葉</b>		○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○活動を通して、遊びの中のいろいろな決まりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○保育者や気の合う友達の話に興味を持って聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○友達の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	
	<b>表現</b>		○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	



令和2年度  
所内研修まとめ

市内保育所 共通テーマ

「生きる力を育む」

第1保育所 サブテーマ

「心の育ちを見つめる保育」

東金市立第1保育所

○市内保育所 共通テーマ 「生きる力を育む」

○第1保育所 サブテーマ 「心の育ちを見つめる保育」

○前年度所内研修の成果

\*前年度テーマ 「継続して遊びを楽しめる環境構成と援助」

- ・遊びを継続させていくために、それぞれの場面、コーナーで工夫を凝らした環境設定に取り組むことができた。
- ・「〇〇やりたい！」と保育者に伝え、自分から遊び出す姿が見られ主体性が育った。
- ・年下の子が年上の子の姿をよく見ており、経験が増えていった。
- ・後期、特に幼児組はクラスの枠を超えて、遊びを大きく広げたうえで、終わりの形もイメージして遊びを終了することができた。
- ・継続して遊びを楽しむために、環境構成の大切さを改めて感じる事ができた。
- ・保育者も環境の一部であり子どもに与える影響の大きさを実感した。

○課題を感じた子どもの姿

《幼児》

- ・自分を認めてもらいたい気持ちが大きく、保育者の気を引きたがる。
- ・保育者が遊びに加わらないと、遊びが発展できず単発的になってしまう。
- ・様々な物・事に興味はあるが、持続しない。

《乳児》

- ・個性もあり、様々な物・事に興味を示している。
- ・月齢で発達段階も違うので、一人一人のペースを大切に過ごしている。

○保育者の願い

《幼児》

- ・子ども達の気持ちが満たされ見通しをもった行動ができるようになってほしい。
- ・じっくり遊べる環境の中で、自分のやりたい遊びを見つけ存分に楽しんでほしい。

《乳児》

- ・一人一人に合わせた遊びや生活をしていく中で、自分のペースで様々なことを身につけてほしい。

○願いを達成する手だて

- ・一人一人と向き合い気持ちを受け止め、子どもが安心できる場を作っていく。
- ・子どものつぶやきや遊ぶ姿・発想を見逃さず、遊びの環境を整えていく。
- ・一人一人のペースに合わせた援助を行いながら、周りの友達にも目を向けられるようにしていく。

☆研修方法

- ・日常の子どもの姿（遊びや生活の様子・困った場面など）の写真を持ち寄り、出来事や成長の様子を話し合い、様々な意見や感想を伝え合うことで共通理解を図る。
- ・気持ちの満たされない子どものクラスでの様子や対応の仕方を話し合い、安定した生活が送れるようにする。
- ・話し合いを通し、保育者間の共通理解を図ることで、子どもに対する関わり方が同じになり園全体で一人一人の成長を見守っていく。

## ○所内研修の経過

《年5回の所内研修を実施》

### 1回目（4月）

内容：昨年度の反省・今年度のサブテーマ決定

↳昨年度の反省の中から課題とを感じる子どもの姿を出し合い、今年度のサブテーマを決定する。

### 2回目（7月）

内容：各自、子どもの心の育ちが感じられる場面の写真を持ち寄りエピソードの発表。

↳エピソードを聞いて、率直な意見や感想を伝え合い、共通理解の元にその後の保育を進めていく。

### 3回目（9月）

内容：各自、子どもの心の育ちが感じられる場面の写真を持ち寄りエピソードの発表。

↳エピソードを聞いて、率直な意見や感想を伝え合い、共通理解の元にその後の保育を進めていく。

前回の研修よりも職員の意識が高くなり、写真の場面ではない子どもの様子や成長した様子を伝え合うことができた。



### 4回目（11月）

内容：各自、子どもの心の育ちが感じられる場面の写真を持ち寄りエピソードの発表。

↳エピソードを聞いて、率直な意見や感想を伝え合い、共通理解の元にその後の保育を進めていく。

研修中、子どもの心の育ちを育むにはどのようなことが大切なのかを考える話し合いも必要という意見があり、次回の研修ではエピソード発表だけではなく、心が不安な子どもへの対応等の話し合いをすることとなる。

### 5回目（1月）

内容：保育情報誌の中のコラムを参照し読み合わせをしたうえで、心が不安な子どもに対して、どのように対応していったら安心して過ごせるようになるのかや過去の心が不安な子どもへの対応事例をあげ、今までの対応の仕方の良かった点を確認し合ったり、今後どのように関わっていったら良いかを話し合ったりすることで、職員間の共通理解を深めていった。

第1回目（8月）

0・1歳児

- ・探索遊びに付き合うようにする。
- ・室内の環境構成を考える。（コーナーを4つくらい作る）
- ・食事も3段階（0歳児・1歳高月齢・1歳低月齢）にするとスムーズになる。

2歳児

- ・入室してきた時の男児用のコーナーが用意されていると良い。

3歳児

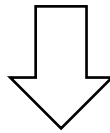
- ・ままごとコーナーの素材が増えると遊び方も変わってくる。
- ・はじき絵で花火を作っていたが、子どものイメージは 夜=黒 ではない。

4歳児

- ・廃材制作=作って遊ぶ なので、作ったものを広げて遊べるようにしていけると良い。
- ・大人が子どものそばで一生懸命にやることは良いこと。子どもも集中して観察する。

5歳児

- ・ツバメに興味をもっていたようなので、絵本や紙芝居・歌も良いが、絵を描けると良かった。
- ・戸外遊び後、園庭のパトロールで片付けをしていたが、翌日に遊ぶことを楽しみにしてそのままにしておいたところもあるかもしれないので、きれいに片付けなくても良かった。



助言を受けての変化・今後の課題

(○)

(☆)

第2回目（12月）

0・1歳児

- コーナーも整っており、子どもの成長も感じられた。
- 好きな遊びが存分にできており、ゆったりしている。
- 食事の時間や排泄のタイミングなど、自分のペースで行えているのは良い。

2歳児

- 室内遊びのコーナー設定ができており、子どもの流れがスムーズになった。
- ☆異年齢交流での「お店屋さん」はあったが、4歳児に役割を持たせたり、やりとりの仕方を「教えてあげて」と声をかけてあげたりしても良かった。

3歳児

- ☆絵具遊びをしたが、描いたものを次へどうつなげていくのかも考える。
- ☆作ったものを使って遊ぶことを習慣づける。
- ☆保育者がやってあげすぎな部分があるので、自分でできるような声かけが必要。
- ☆一斉に片付けをするのではなく、遊びが満足した子から片付けができると良かった。

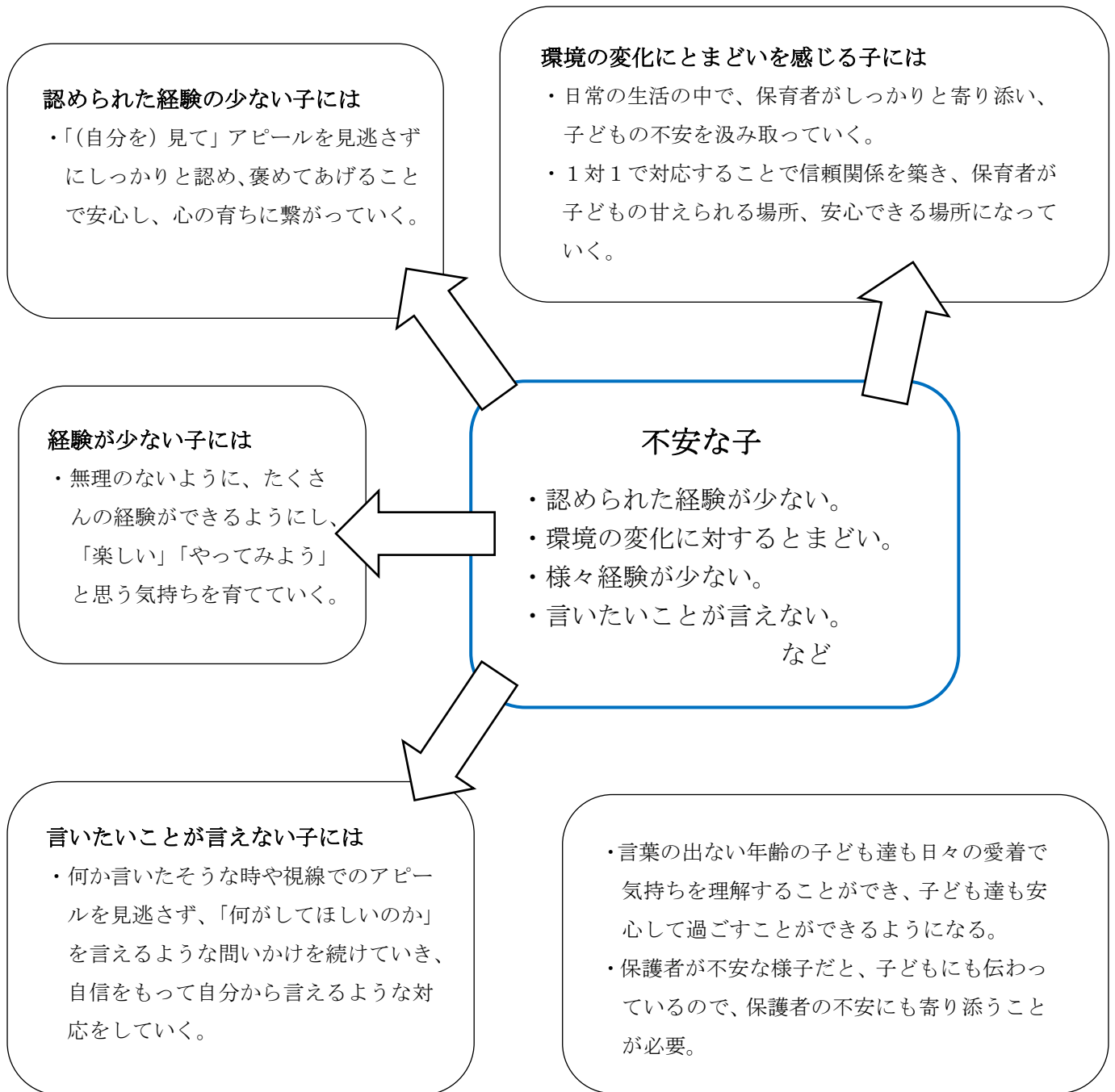
4歳児

- 室内のコーナーの配置が良い。
- クラスでは遊びに来た年下の子に教えたり面倒をみたりする姿が見られた。

5歳児

- ☆雨が止んできて、ベランダで木工遊びをしていた子ども達が戸外で遊べるのかを気にしていた。戸外遊びのタイミングを工夫すると良かった。
- ☆異年齢で給食を一緒に食べる日なのであれば、少し早めに3歳児のクラスに移動して、室内の片付けを手伝ってあげても良かった。

○心が不安な子への対応について



- ・「(そばにいる保育者に)思っていることを言っているんだ」と思える気持ちを大切にしていく。
- ・思いを伝えることができた時には十分に受け止めることで、不安な気持ちが和らいでいく。
- ・保育者だけで解決しようとせず、保護者にも様子を伝え、一緒に子どもの不安な気持ちに寄り添っていくことが大切。

○園内研修の成果と課題

	成果	課題
乳児	<p>○保育者の姿を見て、新入所児や年下の子の面倒を見る姿が見られるようになった。その姿を認めながら見守ったりやり方を教えたりしていくことで、優しく接することができるようになり、他の行動にも自信がもてるようになった。</p> <p>○少しずつ周りにも目を向け、友達の思いに気づけるような言葉がけや友達と同じ遊びをする姿・幼児の遊びを真似する姿を見守っていくことで、相手への優しさや友達と遊ぶことは楽しいと思う気持ちが育まれ、自発的な遊びが多く見られるようになった。</p> <p>○一人一人丁寧に受け止めていくことで、安定した子どもの心の育ちがみられ、いろいろなことに意欲的に取り組もうとする子どもの姿が見られるようになった。</p>	<p>○それぞれ発達や個性が違うので、一人一人の成長に合わせて見守り、その子に合った声のかけ方や援助をしていく。</p> <p>○うまく甘えられない子どもの気持ちを受け止め、1対1での関わりを多くもち、素直な思いが出せるようにしていく。</p> <p>○戸外では異年齢児と関わりながら遊ぶことができているので、室内遊びや生活の場面でも関わられるような機会を作っていく。</p>
幼児	<p>○子どもの1つの行動に対しての外見からはわからない気持ちを探るなど子どもを理解することへと繋がった。</p> <p>○自然を身近に感じられるように自由に見たり触れたりできるコーナー設定や継続的に創造性を発揮できる環境作りをしたことで、一人一人のイメージを広げて自由に表現する楽しさを味わえる姿に繋がった。</p> <p>○友達の姿を見て気づきや学びに繋がるような関わり方をしたり、丁寧に子どもの言葉に耳を傾けたり対話を重ねたりする中、新たな環境を整えたことが個々の学びと成長に繋がった。</p> <p>○一人一人の子どもの僅かであっても、心の育ちを受け止めることで喜びのある保育になった。</p> <p>○障害をもつ子に対して、子どもなりに受け止められる優しい気持ちが芽生えた。</p>	<p>○保護者とも良いこと・悪いことを含めて子どもへの対応を一緒に考えていけるような関係作りをし、子どもの成長を一緒に喜び合えるようにしていく。</p> <p>○見たり触れたりしたことを自分だけでなく友達とも共有できる環境や子どもが試行錯誤しながら様々な方法を見つけていける環境を設定していく。</p> <p>○異年齢の関わりを増やし、年上の子の真似をしたり年下の子を思いやったりしてみんなが刺激し合える関係を作っていく。</p>
全体	<p>○一人一人の子どもの気持ちに寄り添っていくことから子どもを理解することに繋がり「自分を見てくれる」「認めてもらえた」という安心感や肯定感を得ることで、さらにそこから育ちが見られるという循環を感じる事ができた。</p> <p>○子どもの行動を振り返ることで気持ちが育ってきていることに視点を置き、そこから保育の振り返りに繋げていく事ができた。</p> <p>○自分のクラスだけでなく、園全体へ目を向けるきっかけとなり、全職員で全園児を見守ることへと繋がった。</p>	<p>○“心の育ち”というテーマに沿って学び合う機会ではあったが、個人にポイントを絞るのか年齢なりの心の育ちとしてポイントを絞るのか明確にする。</p> <p>○保育者の関わり方に対する子どもの変化を系統立てて追っていく。</p> <p>○日常的に保育について語り合う前向きな意見を言える職場環境を整えていく。</p>

### 【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"><li>●子どもの最善の利益の考慮</li><li>●組織としての基盤の整備</li><li>●社会的責任の遂行</li><li>●健康及び安全の管理</li><li>●職員の資質向上</li></ul>	子どものありのままの姿を受入れ、寄り添いながら保育を進めてきた。子どもの健やかな育ちの保障をしていく中で、今年度はコロナ対策に終始し、特に衛生面での対処に追われることが多かった。保護者への理解を深め、協力を求める部分も多い日常であったが、職員の連携の下、衛生管理を徹底し、変わらない保育が展開できるよう努めた。意見を述べやすい環境を作り、気兼ねなく発言できることを目標に研修会の進め方を工夫し、発言の少ない職員からの意見等を引き出していった。
--	---

### 【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"><li>●全体的な計画</li><li>●指導計画</li><li>●週日案</li><li>●学級経営案</li></ul>	全体的な計画が基盤ではあるが、月に1回の話し合いや、毎週の週案会議で実際の子どもの姿を振り返り、その姿に即した指導案を作成し保育実践を進めてきた。“自分を認めてもらいたい”という気持ちが強い子どもが多い現状から、一人一人の気持ちに寄り添うことを大切にすることで、愛着関係を築き自己肯定感を育むことに繋がった。
---	--

### 【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"><li>●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援</li><li>●地域の保護者に対する子育て支援</li><li>●地域における連携交流</li></ul>	コロナ禍での保育が続き、小学校や地域との交流、子育て支援を実施することはできなかった。保育所内の行事も保護者と一緒に、ということは難しく、保護者との対話を多くもち、掲示物等を利用し保育の理解を深めていった。
--	---

## ○まとめ

今年度からテーマも変わり、子どもの「心の育ち」を見つめることを意識しての保育となった。

目には見えない「心の育ち」というテーマであり、難しい部分が多かったが、写真を持ち寄ってエピソードを発表し意見や感想を話し合うようにしたことで、子どもの姿がわかり理解し合えたことで、保育者全員で全園児を保育することができるようになり、成長を見守ることができた。

子ども達も、「見てくれている」「褒めてもらえた」ということが増えたことで、様々なことに自信をもって取り組めるようになってきた。4月当初には、あまり見られなかった、異年齢交流も徐々に見られるようになり、年下の子を優しく面倒を見てくれる姿もある。また、遊びの中でも、保育者が一緒に遊び、仲裁に入ることが多かったが、自分達で遊びを進めたり、年上の子の遊びを真似て遊んだりするようになり、保育者はそばで見守ることが多くなってきた。一人一人の気持ちをしっかりと受け止め、その子に合った対応をしてきたことで、子ども達も安心して過ごせるようになってきたと思う。

今後も環境の変化などで不安になってしまう子はまだまだ多いと思われるが、一人一人の気持ちを大切に受け止め、子どもの気持ちに寄り添いながら、職員で連携し合いながら日々の保育を行っていききたいと思う。





令和2年度

## 所内研究まとめ

市内保育所・こども園共通テーマ  
「生きる力を育む」

サブテーマ      <子どもの育ちを保障する>  
                                 ~保育士の関わり~

東金市立第2保育所

市内保育所共通研究テーマ『生きる力を育む』

サブテーマ「子どもの育ちを保障する」  
～保育者の関わり方～

<子どもの姿>

- ・遊びの面では、好きな遊びをみつけて遊び出すことができているが、生活面では、1つ1つ声かけが必要となる子が多い。
- ・自分の思いを通そうとする。
- ・自信が持てずに、なかなか行動できない。
- ・自分で考えて行動できない子がみられる。
- ・友達や保育士とのコミュニケーションがうまくとれない。

<保育士の願い>

- ・様々な職業がAIにとって代わると言われている未来を生きていく子ども達、そんな未来を生き抜くために、非認知能力を育てて欲しい。
- ・自分の思いばかりでなく、友達の思いも受け止められるようになって欲しい。
- ・自分で考えて行動できるようになって欲しい。
- ・一つの遊びを遊び込めるようになって欲しい。
- ・自分の思いを伝えられるようになって欲しい
- ・心身共に健康に育ててほしい。

・様々な子どもの姿から、丁寧に育ちを読み取り、援助していくことで保育士の願いが叶うのではないだろうか。

サブテーマ

サブテーマ「子どもの育ちを保障する」  
～保育者の関わり方～

<仮説>①

- ・子どもの“やりたい” “やってみてみたい”に着目してみたら、そこから子どもの育ちが見えてくるのではないかと？そのために遊びの環境を整えて行ったらどうか？

<仮説>②

- ・一人一人の発達に見通しを持って接することで、子どもの育ちが見えてくるのではないだろうか？

<仮説>③

- ・それぞれが、子どもの育ちをどこから見出すかをテーマに取り組むことで様々な育ちの姿が見られるのではないかと？

<研究の手立て>

- ・保育者一人一人が、自分の視点を持ち、そこから見える子どもの育ちを記録し、事例からその子にあった育ちを保障できるようにする。
- ・事例研究をすることで、子どもの育ちの保障をいかにしていくかをまとめる。
- ・期ごとに話し合いの場を持ち、ディスカッションし、次の研究へとつなげていく。
- ・保育士の関わりに焦点を置き、自身の援助の仕方、環境構成の仕方を工夫する。
- ・反省・考察をしっかり行い、次につなげられる様にする。

## 1年のまとめ

研究を進めるにあたり、保育所・こども園共通テーマ、園独自のテーマを基に仮説を念頭に置き、一人一人が自分自身のテーマを決め、1年間研究した。

<5歳児>

- ・苦手な事にも挑戦してみようという気持ちを持てるようになる
- ・周りのことに目を向け主体的に関われるようになる

<3・4歳児>

- ・様々なことを可視化することで自ら行動できるようにする
- ・生活や遊びの中で「自分でできた！」という場面を多く持てるようにする
- ・子どものやりたいやってみようを探る中で気持ちの成長を捉える

<2歳児>

- ・異年齢と関わる中で子どもの育ちを捉える

<0・1歳児>

- ・一人一人の身体的発達を促す

○それぞれが自身のテーマを基に事例研究し、そこからどのように子どもの育ちが保障できたか（成果）？  
課題は何か？

事例から読み取れたこと（成果）	反省・課題
<p><u>5歳児</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは、子どもの中で育つ。<u>友達同士話し合う機会</u>を多く持つことで、自分の気持ちの折り合いの付け方を学んだと思う。</li> <li>・友達と協力しあう大切さや、力を合わせ1つのことをやり遂げる楽しさを学んだ。</li> </ul> <p><u>3・4歳児</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚に訴えかけることで<u>自ら行動できる</u>ことが増えた。</li> <li>・やり遂げることができると自信となり、遊びだけでなく、生活面でも積極的に行動できるようになった。</li> <li>・<u>子どもの興味関心を探る</u>ことで、自ら遊びに関わり、楽しむことが出来た。</li> </ul> <p><u>2歳児</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の関わり（年上児・年下児）を持つことで、年上児にしてもらった経験から年下児にやってあげようとする姿が見られ、体験・経験の大切さを感じた。</li> </ul> <p><u>0・1歳児</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の発達を見極め、遊びの中で促すことで、0・1歳児の時期の身体的発達が目に見えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見をあまり出さない子の気持ちをどう汲み取ってあげるかは、これからの課題だと思う。</li> <li>・リレーで勝ったり負けたりの経験が団結力に結びつき、子どもの育ちに繋がった部分も多くあった。1つの活動がその後に結びついていたので、クラス全体で協力して取り組む活動をどう取り入れていけるかが課題となる。</li> <li>・子どもたちの視覚に訴えかける大切さを感じた。どのような部分を可視化していくか考えながら行っていく必要性を感じた。</li> <li>・自分で出来た！という経験を積み重ねていくことが大切で、そのような場面を作り出すことが思う様に出来なかったことが反省となった。</li> <li>・興味関心を探ることは、とても難しいが子どもの興味にはまった時は、本当にいい顔で遊ぶので、そのような遊びをみつけていくことが課題だと思う。</li> <li>・年長さんと散歩に行ってもらったことを、0・1歳児に同じようにしてあげていた。その姿を見て、交流の大切さを感じ年間を通しての交流計画をたてておくべきだったと反省する。</li> <li>・子どもの身体的発達は、一人一人の成長過程があり、運動遊びの環境設定の工夫の難しさを感じた。今後は、運動遊びの中で「〇〇が出来るようになる！」等の目標を持って、取り組めるようにしたい。</li> </ul>

### 【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの最善の利益の考慮</li> <li>●組織としての基盤の整備</li> <li>●社会的責任の遂行</li> <li>●健康及び安全の管理</li> <li>●職員の資質向上</li> </ul>	<p>子ども一人一人に合った、発達を促すこと即ち育ちを見出すことが子どもの最善の利益と考え保育に取り組み事例研究を行った。公立保育所であるが、職員の勤務体制が多種多用となりその中において、スムーズに保育に当たれるよう体制を整え日々職員の配置に気を配った。今年度は、職員で試行錯誤し、給食時の衝立や午睡時の足ふきタオル（1人1枚使用）などコロナウイルス感染症予防のための対策を行った。また、コロナ禍で研修が受けられない中、web研修を受講し（所長）まとめを職員に周知していくことができた。</p>
--	---

### 【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的な計画</li> <li>●指導計画</li> <li>●週日案</li> <li>●学級経営案</li> </ul>	<p>保育所保育指針、東金市幼保共通カリキュラムを基に全体的な計画の特に配慮すべき事項 10 項目を所独自にたて、そこから長期的計画として幼児組は学級経営案、乳児組は月指導計画を立案。短期的計画として週指導計画を作成。作成にあたっては毎週週案会議を開き、職員間の共通理解をはかり、保育環境からの子どもの育ちを見出すべく立案、実施、反省を繰り返し取り組めるようになってきた。</p>
--	--

### 【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援</li> <li>●地域の保護者に対する子育て支援</li> <li>●地域における連携交流</li> </ul>	<p>今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、幼児組保護者は、玄関までの送迎となり、保育士が引き渡しをすることで一人一人の保護者とのコミュニケーションが今までより取りやすくなった様に感じた。玄関での掲示連絡、掲示板でのその日の活動内容報告、園だより、通信での情報発信の他、全クラスがポートフォリオを作成し、玄関先に掲示し発信することができた。地域との連携や地域の子育て支援は、コロナウイルス感染拡大防止のため実施することができなかった。</p>
--	--

#### <まとめ>

- ・「子どもの育ちを保障する」ということをサブテーマに決め、遊びの中から育ちを抽出し保育士の関わりを研究しようと取り組んできた。子どもたちが自分たちで遊んでいる時は、そっと抜けて見守ることも大事だということ巡回指導で助言をいただき、自分たちで遊びを進められるように環境を整えていく中で、見守る事の大切さを感じることができた。ただ見ているだけでなく困った時には解決できるような声掛けをしたり、きっかけを与えたりするなど保育士がアドバイザー的存在となって進めることも多くあった。そのようなことから一人一人が引き際を考えながら保育に当たることを念頭におき取り組んだ。それも今回のひとつの成果と言えるだろう。
- ・4回の話し合いの場では、事例を持ち寄りその中から「どんな育ちが読み取れたか?」「私だったら～した」という視点から意見を出し合い、他者の意見を聞くことで視点が広がり次へと繋げることができた。たくさんの意見は、それぞれの保育士の学びともなった。
- ・保育士それぞれが自分なりに視点を決めて取り組んだことで、そこから見えて来る子どもの育ちを1回1回読み取ることができ、可視化することでの子どもの主体性や興味関心を探ることから遊び込む子どもの姿、身体的発達に着目した事例から育ちを読み取ることができた。様々な場面で子どもの育ちが読み取れ、それが保障できているかは難しいが、そこに向けての取り組みは成果があったと思う。
- ・今回の研究を基に子どもの育ちを遊びの中から引き出していけることがわかり、保育所全体で共通理解の基に今後も引き続き取り組んで行きたいと思う。
- ・研究を経て子どもの育ちを保障するという事は、身体的精神的な育ちと共に自分たちで活動を進めて行けるようになること、すなわち生きる力を育てて行くことに繋がって行くと思う。更に研究を進め子ども達の生きる力の基となる根本の育ちを保障できるようにしていきたい。

# 令和2年度 所内研修まとめ

市内保育所共通テーマ  
「生きる力を育む」

第3保育所サブテーマ  
「～ “やってみたい・やってみよう・考えよう” からのつながる保育～」



東金市立第3保育所

令和2年度 所内研修計画

テーマ 「生きる力を育む」  
サブテーマ 「“やってみたい・やってみよう・考えよう” からのつながる保育」

《子どもの姿》

- ① 遊びや絵本等を通して、集中力や創造力が育ってきている子もいるが活動に乗れない子も見られる。
- ② 自分の気持ちを言葉で表現できるようになった一方で自己中心的な姿も見られる。
- ③ 遊びでは主体的に行動できる子も見られるようになったが、生活面では受動的に行動する子が多い。

《保育者の願い》

- ① 心と体を動かして夢中になれる子になって欲しい。
- ② 人とのつながりを大切に心を通わせながら人間関係を築く力が身に付いて欲しい。
- ③ 自分で考えて行動できるようになって欲しい。

【昨年度の取り組みや子ども同士・子どもと保育者・保育者同士・地域とのつながりを大切にしたい!!】

サブテーマ 「“やってみたい・やってみよう・考えよう” からのつながる保育」

《仮説》

- ・子どもからの “やってみたい(意欲)・やってみよう(挑戦)・考えよう(思考)” を保育者が受け止めて保育をすることで、子ども達から主体的な発言や能動的な行動が多々見られるようになるのではないか？
- ・エピソード記録を作成し、職員間で共有することで、場面を捉えて子どもの気持ちや行動を客観的に見ることができ、保育の見直し(克服できにくい課題を明確)をすることで子ども達にも変化が起きるのではないか？

《手立て》・・・昨年度の反省・課題を踏まえて…

- ・年齢ごとにねらいを設定し、室内と戸外の遊びや活動のつながりに着目する。
- ・昨年度まで行ってきた環境構成や取り組みを継続しながら、更に一人一人の意欲・挑戦・思考が伸びるような援助や見守りを探っていく。
- ・子どもの遊びの様子やその際の保育者の援助(環境構成)等を定期的に記録して、職員間で共有していく。

●研究方法

1. 期ごとに全職員で話し合いの機会を持ち、その都度課題を提示して、保育についての共通理解を図っていく。
2. エピソード記述を用いて、子どもの様子を共有する。
3. 巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しを行っていく。

5歳児年間ねらい 【ひと・もの・こと にかかわる意欲を育てる】

(背景) 室内遊びの中で絵の具を使う機会があり、色の濃淡に興味を持ち始めていた。  
他のクラスでも、ペットボトルで色水作りが始まり、行き来しながら楽しんでいて。そんな中、お城作りで屋根を絵の具で塗る作業を行うと、赤と青の量によってできる色の濃さの変化に気付き面白がっていた。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>室内で制作しているお城の屋根を絵の具で塗りたいと言う。</li> <li>子ども達で話し合い、屋根の色を決め始めた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天候があまりよくない日が多く、テラスにて行えるように準備する。</li> <li>○保育者が絵の具を準備する中で、希望の色を作り出すための絵の具を自分達で用意できるようにした。</li> <li>*どの色を混ぜると希望の色になるのかを子ども達と一緒に話し合う。</li> <li>*色の変化に共感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの色を混ぜ合わせると何色ができるのかを知っていたが、絵の具の配分によってできる色が変わることを知り、楽しんでいて。</li> </ul> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>「同じ色を入れたのに、なんか違う色だね」とお互いの色を見せ合ったり、色をどのぐらいの配分で混ぜたかを話し合ったりしていた。</li> <li>「またやりたい」と保育者に伝えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペットボトルと5種類の色水を用意する。</li> <li>○コロナ対策に配慮しながら、個々の小容器やロートを用意する。</li> <li>*色を混ぜ合わせてできる色を予想しながら行う。</li> <li>*でき上がった色を保育者や友達同士で楽しんだり、微妙な色の違いを確認したりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が実際に色を混ぜ合わせることで、より楽しさを味わえたように感じた。</li> <li>継続したいという気持ちを保育者に伝えてきたため、戸外で色を増やして行うことで更に楽しめるのではないかと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>色水を作る楽しさと、予想する楽しさを味わっていた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戸外でコーナーを作る。</li> <li>○コロナ対策として、少人数で行えるようにした。直接水遊びとしないようにした。</li> <li>*でき上がる色を予測したり、色の変化を楽しんだりできるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>微妙な色の変化に子どもが気付き、楽しんで参加していた。</li> <li>3・4歳児が興味を持って見ていた。</li> <li>色水を他のコーナーに持っていくことで遊びの展開ができないだろうか。コーナーを継続してみよう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>3・4歳児が5歳児の真似をして色水を作り出す。</li> <li>色水を他のコーナーへ持って行くが、すぐに持って帰ってきた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>*5歳児の時と同様に色水を作る楽しさを共感し、色の変化を楽しむ。</li> <li>○色水コーナーの他に、にじみ絵コーナーを作る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策を踏まえながらコーナーを設置したが、制限を緩めた方が楽しめたのではないだろうか。</li> </ul>

巡回指導を終えて・・・

自分達自身で話し合う機会をもっと作ってほしい。



コロナ対策はどこまでしたらいいの？

興味や関心を広げて継続したり、遊びを発展させたりしていくには？

【巡回指導 助言】

- 5歳児の姿として、興味や関心から自分で調べてみようとする姿が育ってほしい。
- (5歳児同士のトラブル) 自分達で解決できるようになっていけるといい。

【今後の課題】

- 興味や関心から子ども達の疑問や不思議を聞き逃さずに一緒に調べる環境を整えていく。
- 身近な動植物を観察しながら調べる力を育てたい。
- 保育者が見守る中で、子ども自身が自分の思いを出せるような機会を増やしていき、少しずつ自分達でいろいろなことを解決できるようにしていきたい。

【背景】 興味や関心から自分で調べる力・解決する力を育てる観点から、日頃の生活の中や運動会の行事では、子ども同士で話し合う場面を多く持つように心掛けた。その結果、少しずつ自分達で解決しようとする姿が見られるようになってきた。具体的に色水遊びから色への興味を持ち、布を染めることを経験して最終的に玉葱染めへと変化していった。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>玉葱の栽培収穫から玉葱の皮で染物ができると知り、興味や関心を持つ。</li> <li>園庭にある、ブルーベリーの実が熟し漬すと赤くなることから、興味を持って、袋に集めだした。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収穫した玉葱を給食で使うことで出た玉葱の皮を貰い、集める。</li> <li>○収穫した実を入れるためのビニールや箱を用意する。</li> <li>*保育者も一緒にどの実が熟しているのか確認しながら収穫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•色に興味を持つことで、子ども自身で考え、身近な植物に関心を持って接したり、触れたりする経験をしている。</li> <li>•コロナで園外に出る機会が減っているが、逆に園内の身近な植木や草花に今まで以上に目を向けていると感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>玉葱染めでは、皮の色を想像して予想を立てて臨んだり、自分の染めたい物を持参して染めたりした。予想した色が出ないことから驚いていた。</li> <li>自分で収穫したブルーベリーも試してみたいという子も出てきた。(ビーツも行った。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○染物で火を使うため、安全を確保しながら材料や用具を準備する。</li> <li>*染物を行うための準備や手順を分かりやすく伝えていく。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>•自分達で想像していた物と違う色に、驚きと不思議さを味わうことができた。そのことにより、更にもっと「やってみたい」と好奇心を持つことができた。</li> <li>•染めた布を自身で洗うことにより、気づき、充実感を味わえた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルーベリーではピンクに染まった布が変化することで、驚き、不思議がる姿が見られた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども達と色が変わってしまったことについて話し合う場面をつくった。</li> <li>*次のチャレンジでは布に色が付くための方法を話し合い、子どもの意見に耳を傾けたり、共感したりして盛り上げていけるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•失敗することにより、子ども達が考える機会ができてよかった。また、再度挑戦したいという意欲も出てきた。</li> <li>•子ども達から意見が出たり、身近な人に聞いて調べようとしたりする姿もあった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>再チャレンジでは子ども達の考えたいくつかの方法を試してみた。</li> <li>布を洗う時には、期待を込めて洗い、色が変わっていく様子を確認していた。</li> <li>ブルーベリーの染物では、玉葱と違う色の変化があるのだと感じていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども達が提案したことを取り入れた。(鍋の種類・煮る・浸す時間・他の液体と混ぜるなど)</li> <li>*子ども達が考えたことを受け止め、実際に取り入れられるように配慮した。</li> <li>*子どもの気づきに共感する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>•子ども達の中で失敗と感じていたことが、繰り返し挑戦することで、これが答えなのだ気付くことができたようだ。</li> <li>•原材料から色の予想、色の変化に気付くことができてきているので、もう少し継続して行った方がよいのではないかな?</li> </ul>

全職員で話し合っ...



玉葱やブルーベリー以外の物を染めてみるのもよかったのかな?

育てた野菜を収穫するだけで終わらず、のちに染物が体験できたことはよかった。

染物で失敗したことが、再度考えるきっかけになっているのがわかった。

異年齢を巻き込んで遊びが発展できたらよかったかな?

染物はよい経験となったのではないかな。何度も繰り返し行うことで興味や関心が広がったのではないかな。

【考察】

- 染物体験を通して、身近な物で色が染まる楽しさや色の不思議さに興味や関心を持てたのではないかと感じた。また、色を染める原料から、子ども達は何色に染まるのかを想像して染物に参加してきたが、思いもよらない結果となり、考えたり意見を出し合ったりするよい機会ができたように感じる。
- コロナウィルス感染予防対応で、少人数での色水あそび・染物を行ってきたが、5歳児からの遊びの発信という意味においては、発信力が低く、遊びの展開があまり広がらないように感じた。
- 玉葱以外の野菜を使ったことや作品も伝わっていなかったため、作品の展示や作業の風景を貼り出すなどして、可視化していくことが必要ではないかと考えられる。



4歳児年間ねらい 【遊びや生活の中で友達とかかわり、一緒に試したり工夫したりして遊びを進める楽しさを味わう】

【背景】 春先から畑に行く機会を持つ中で、自分達の育てている野菜の生長に関心を持っていった。その中で畑の脇にあったプランターの中の小さな芽に気付き、生長した苗を植えたり、夏野菜を植えたりしたことで子ども自ら興味を持って畑に行くようになった。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>虫探しや野菜の生長を見る中で植えた苗にも関心を持っていった。</li> <li>野菜の花を見て、自分たちの気づきを伝えている。</li> <li>草花にも関心を持って摘んで喜んでいる。</li> </ul>	<p>○畑の方に行ってみたい気持ちをくみ取り、一緒に行くようにした。</p> <p>*野菜の生長をさりげなく気付けるようにした。</p> <p>*子どもの気づきを大切にし、一緒に考えたり、共感したりしていった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達と一緒に観察することで自分達の経験を言葉で伝え合う姿が見られるようになったのだと思った。</li> </ul> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の中から、「スイカ!大きくなったか見に行きたい。」と言うようになった。</li> <li>花摘みをし、サルビアの花に興味を持って摘み、手に付いた花の色に気付き、手に付いた色を楽しんでいる。</li> </ul>	<p>○一人ではなく他の友達も誘って行くことを提案した。</p> <p>*スイカの生長を一緒に喜び、収穫を楽しみにしていった。</p> <p>○紙を用意した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と行ったことで会話が広がり、楽しむことができたのではないかと。</li> </ul> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>サルビアの花の色によって、色の違いがあることに気付き、いろいろ試すようになった。</li> <li>花の色について伝え合っている。</li> </ul> 	<p>*他の花にも目を向けられるように声を掛けた。</p> <p>*子どもの気づきに共感した。</p> <p>*草や花の匂いなどにも興味を持てるようにした。</p> <p>○畑の隅から、園庭近くに場所を移動した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所を移動したことで、他児も関心を持つことができた。</li> <li>子ども同士が言葉で伝え合うことを楽しんでいた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で描いた物を大切に持っている。</li> <li>持っていたものを楽しんで貼り出した。</li> </ul>	<p>○描いた物を貼れるように開いた段ボールやのりを用意した。</p> <p>*子どもの話したい気持ちを大切にし、でき上がりを喜んでいった。</p> <p>○完成したものを保護者の見えるところに置き、親子での会話が弾むようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できたものを、貼っていったことで満足感を持っていた。</li> <li>降所時自分の描いた物を見せ、親子で会話を楽しむことができ、子どもの様子を知ることができた。</li> </ul> 

巡回指導を終えて・・・

3年齢で楽しめるコーナーをどうやって作っていきこうかな。



遊びの展開をどのように進めようかな?

でき上がった物を展示して、その後どうやって遊びに取り入れたらよかったかな。




【巡回指導 助言】

• 遊びの中で作った物を今後どうするのが、子どものその後の遊びの様子につながっていくので、考えていってほしい。

【今後の課題】

• 子ども達の遊びをどのように展開や発展をさせたいのかを、子どもの様子を見たり、一緒に考えたりしていく。

• 子どもの活動の予想を事前に考え、道具などすぐ出せるように、準備することを心掛けていきたい。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭にモグラが掘って、できた砂の山を踏んで壊している。</li> <li>・畑にもできていることに気づき同じように遊んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*何がいるのか、中にいるかもしれないと聞いてみた。</li> <li>*掘ってみてもよいことを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の中で穴を掘ってはいけないと思っているのではないかな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場からスコップを持って来る。</li> <li>・草の根がはびこっていて掘れないと諦めかける。</li> <li>・保育者が手伝ったことで、子ども同士が声を掛けながら、掘りたい場所を決めている。</li> <li>・3歳児や5歳児も来て、一緒に掘り出し、5歳児が掘り方をアドバイスする。</li> <li>・穴を見つけ喜んで掘り続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>O保育者がスコップを出し、手伝ってもいいか聞く。</li> <li>O穴を見つけやすいよう一緒に掘る。</li> <li>*砂を掘る際、周りに注意するように一人一人に合わせて声を掛けたり、かかってしまった時にどうしたらよいかを考えられるようにしたりしていった。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者も一緒に行くことで「自分達も力を合わせてできる」と思ったのではないかな。</li> <li>・友達同士で考えたり、相談したりして楽しんでいたが、5歳児が入ったことで、子ども同士掘り方について伝え合うことができてきた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が増えると最初に始めた子は離れ、様子を見守っている。</li> <li>・砂の塊(草の根がついている)を地面に落として砂が落ちるのを楽しんでいる。</li> <li>・地面だけではなく、他にも落としたり、ぶついたりして遊び始めた。</li> <li>・入室前汚れに気づき、ほうきを探し掃除をする。</li> <li>・壁に描いてある絵を的にして砂の塊を投げていた。氷を作ろうとしたり、釣りごっこをしたりしている。(後日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*草の根が凄いを話し、根まじりの塊に興味を持てるようにした。</li> <li>*子どもの気づきに共感した。</li> <li>*コンクリートのたたきの上が砂だらけになっていることを知らせる。</li> <li>O野球に出てくる掛け声を掛けたり、気づきにに合わせて用具を用意したり、明日に続くような声を掛けていく。</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が増えたことで自分達の考えがまとまらなくなってしまい、他の遊びに目が向いていったのではないかな。</li> <li>・子どもの気づきに共感していくことで新たな遊びが始まったのではないかな。</li> <li>・子どもはどんなことでも遊びにし、友達と一緒に同じ遊びをする中で考えたり工夫をしたりしながら、いろいろな遊びに、発展していくのだと思う。子どもの思いをくみ取り、用具などの準備が大切だと思った。</li> </ul>

### 全職員で話し合って・・・



子どもの人数が増えたことで遊びから抜けていった子どもの受け止め方はどうしたらいいのかな。

子どもの思いに合わせて必要なものを十分に用意できたかな。

子どもの興味や関心に合わせて次の展開をどうしているのかな。

友達と思いを出し合いながら、考えたり工夫したりする場になったかな。


異年齢児もかかわりながら、遊べるきっかけになったかな。

### 【考察】

- ・自然とかかわり遊ぶ機会を年間通して行っていったことで、自然への気づきが増え、自分の思いを言葉にできるようになってきたのではないかと考えた。
- ・自然とかかわり遊ぶ中で、友達とかかわりが増え、自分の気持ちを伝えられるようになると、子ども同士で遊びを考えたり、工夫したりするようになってきたのではないかと考えた。

3歳児年間ねらい 【4・5歳児の姿に興味を持って、進んでやろうとする。】

【背景】・4月から虫取り網や虫かごを持って虫捕りを楽しんでいる。  
 ・年長児が虫メガネを使って虫や花の観察をしている様子に興味を持って「使ってみたい!」と貸してもらい、観察をしていた。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンゴムシやカエルなどを見つけたり、捕まえたりして保育者に見せに来ている。</li> <li>捕まえたいが、どこにいるか分からず、保育者と一緒に探す姿も見られた。</li> </ul> 	<p>Oお出掛け用鑑や虫メガネを取りやすいように設定する。                  *友達とかかわりが持てるように、見つけた子にどこにいるか聞くなど仲立ちをしていく。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に観察したり、捕まえたりしていくことで、友達とのかかわりも増えていくのではないかな。</li> <li>虫かごに入れて満足している。捕まえるだけで終わらないように、観察できる場所があるといいのかも。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>捕まえた虫をテーブルの上に置いたり、虫かごに入れたりして、虫メガネを使って観察を楽しんでいる。</li> </ul>	<p>*「観察してみよう」と誘い、テーブルの上で虫の動きを見たり、子ども達の発見に共感したりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察できるように誘ったことで、同じ虫でも大きさが違うことや模様があることに気付けたのかな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>年長児が幼虫を捕まえ、「何の幼虫かな?」と手持ちの用鑑で調べ始めたのを見て、3歳児も一緒になって用鑑を持ってきて探していた。</li> </ul>	<p>O室内から用鑑を持ってくる。                  *どんな模様や色なのか、子どもに聞きながら一緒に探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手持ちの用鑑では限界がある?</li> <li>4・5歳児がその場に何人かいたら、いろいろな意見が出て、どんな虫か子ども達で解決できたのではないかな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>テントの中に入り、水筒を持って来て水分補給をしたり、食べ物に見立て、パーティーごっこをしたり、楽しんでいた。</li> </ul> 	<p>Oブランコの所に日陰を作るため、シートを張る。                  *子ども達の様子に応じて、机や椅子を用意し、遊びが広がっていくようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達から“やってみたい!”という気持ちが見られるようになったな。継続して遊んでいけたらいいな~。</li> </ul> 

巡回指導を終えて・・・

ごっこ遊びを楽しんでいるので、もっと盛り上がるような環境を作っていきたい。



子どもの思いに気づき、必要な道具を出していく。






4・5歳児も仲間に入ってもらい、かかわりを持っていけるようにするには、どうしたらいいのかな?

【巡回指導 助言】

- 虫の観察では手持ち用鑑を使って調べていたが、その場所に年上の子がいたらもっとよかった。年上の子がモデルとなり、更に大きな用鑑などを設定していくとまた違った姿が見られたのではないかな。
- ごっこ遊びでは、子どもの姿を見て環境を整えていけるようにしていくとよい。

【今後の課題】

- 遊びが継続するように、子ども達の興味に合わせて環境を整えていく。
- 異年齢児とのかかわりが持てるようにしていきたい。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>4・5歳児の運動遊びや5歳児のチャレンジボードに興味を持ち、雲梯や登り棒などに挑戦していた。</li> <li>体を動かすことに苦手意識を持っていた子も、カードがきっかけとなり、「やってみよう」とする子が増えてきた。</li> </ul> 	<p>O “できた” 達成感を共有できるように、個人のカードを用意する。</p> <p>* やってみようとする気持ちを認めたり、できるようにさりげなく手を貸したりして、満足感や次への意欲へとつなげていく。</p> <p>*一緒に遊んでいる4・5歳児にコツを聞いて、かかわるきっかけを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の“やりたい”を大切にしたい。</li> <li>“できた” “できるようになった”を形にしたいな～。</li> <li>カードには、特に項目を作らなかったことで、一人一人のできたに寄り添えたのではないかな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ラーメンさんやりたい！」と言っていたが、なかなか遊びが始まらない。</li> <li>写真など見て必要な物に気づき、麺やトッピング作りが始まる。</li> <li>ラーメン屋さんメニューがあること、メニューを見て「餃子も作ろうよ！」と声が上がりはじめた。</li> </ul>	<p>O写真やメニューを用意する。</p> <p>*保育者が教えるのではなく、子どもが見て、気付けるようにした。</p> <p>O子どもから出た意見から、材料や道具を用意する。</p> <p>*表現しやすいようにトッピングの見本を作っておく。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージが持てないことで、進められないのかな。子ども達で、ラーメンに何が入っているのか気付いて欲しいな～。</li> <li>ラーメンの具を作るだけでなく、餃子やメニューなどがあることに気づき、環境設定したことで継続して遊べていた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢児がお客さんになって来てくれると、大きな声で「いらっしゃいませ」とはりきっていた。</li> </ul> 	<p>*保育者も仲間に入り、店員さんになりきったり、異年齢児とのかかわりが持てるように呼び込んだりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4・5歳児も加わってくれたことで、遊びが広がっていくかな。</li> <li>2歳児とのかかわりが薄かったので、ラーメン屋さんごっこをきっかけに、かかわりが増えたらいいな～。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち葉集めが始まり、落ち葉を穴に入れて“温泉”を作っていた。</li> <li>紙芝居や絵本で見たことを思い出し、「焼き芋やりたい」と声が上がると、焼き芋作りが始まる。</li> </ul>	<p>*子どもの気づきを大切に、一緒に考えたり、共感したりする。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほうきの代わりに、シャベルやくまでを使い、掃除をしていた。</li> <li>経験したことが遊びにつながっている。</li> </ul>

### 全職員で話し合って・・・



ごっこ遊びも4・5歳児が、モデルとなり進めていたら、3歳児の姿はどう変わっていったのかな？

4・5歳児程の継続はないにしても、実際に作ってみる経験を重ねることで継続する力も育つのかな？

ごっこ遊びをきっかけに、異年齢児との交流がもっと持てるようになると面白そう！！




段ボールで屋台を作るのも面白そう！

2歳児とのかかわりの中で、具体的にどんな姿が見えたのかな？

### 【考察】

- 4・5歳児の姿を見て「やってみたいな」という思いから、「やってみよう！」という挑戦する気持ちにつながっていたように感じる。また、“できた！”を可視化したことで3歳児なりに自信へとつながっていったのではないだろうか。
- ラーメン作りからごっこ遊びへと広がり、友達同士のやり取りも増えていった。メニューやイラストを用意したことで「〇〇があったよ」「外でもやりたい！」と3歳児なりに継続したり、発展したりして楽しんで遊んでいたように思う。

【背景】今年度は、コロナウィルス感染予防による登所自粛などにより、一人一人集団生活のスタートが異なり、生活に慣れるまでに時間を要したが、遊びを楽しんでいる時は、泣かずに笑顔でいることができていた。それぞれ好きな遊びが違うはずなのに、充実しているままごとコーナーに集まる子ども達。どうしたら、好きな遊びを思いきり楽しめるのだろうか？子ども達の姿から『遊びたい』と思える環境構成と援助について考えていった。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>豊で新幹線や車を連結させている。走らせることはなく、その場に寝転がって、車を前後に動かしている。</li> <li>喜んで汽車や車を走らせて遊ぶ姿が見られるようになった。</li> <li>「信号ないね」と気付く子がいる。</li> <li>積み木を持ってきて、トンネルを作って遊ぶ姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事のコーナーにビニールテープで、道路と線路を作る。</li> <li>○材料を用意して一緒に信号を作る。</li> <li>*子どもの声を活かしながら、一緒に作っていくようにする。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>•他の遊び(積み木・ブロック)と重なってしまって、窮屈そうだな。どうして、すぐに寝転がってしまうのだろうか？</li> <li>•思いきり遊べる場所ができれば、夢中で車や汽車を走らせている。楽しそうだな！</li> <li>•あまり自己主張しない〇〇くんが、積極的でいいな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>•レントゲンごっこをきっかけに体に興味を持ち、お医者さんごっこが始まる。</li> <li>•初めは、患者になって病院を受診することを楽しんでいたら、次第に医者になりたい子が出てきて、交代で遊ぶようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*子どもの興味を受け止め、答えたり遊びにつなげたりしていく。</li> <li>○お医者さんセットを用意する。</li> <li>○つい立てで仕切って病院を設置する。</li> <li>*保育者が医者になり、やりとりを楽しむ。</li> <li>○段ボールで新しい病院を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•骨に興味を持ったのかな。内科健診も近いし、お医者さんセットを出してみようかな。</li> <li>•つい立てだと不安定だし、今の場所だと布団を敷くたびにコーナーを片付けないといけな。子ども達が好きな時に遊べない・・・。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>•幼児組の友達が虫取りをしている姿を見て興味を示す子がいる。</li> <li>•さっそく自分の虫取り網を持って、虫を探す姿が見られる。</li> <li>•虫を捕まえたり、手に持ったりすることはできないが、虫取りの雰囲気(虫取りごっこ)を十分に楽しんでいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○虫取り網を11本作る。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>*子ども達の気づきや発見に共感しながら、一緒に虫を探したり、捕まえたり、楽しい時間を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•虫取り網を使わせてあげたいけれど、市販の物は長くて扱いにくし、危ないな・・・</li> <li>•みんな喜んで遊んでくれている。長さも丁度よいし、安心して遊べるね。</li> </ul> 

### 巡回指導を終えて・・・

幼児組とのかかわりをどうやって増やして行こうかな。



虫取りはしたいけれど、虫が怖くて触れない子が多いな。

一人一人が満足するまで遊べるようにするには、今後どうしたらいいのかな。

#### 【巡回指導 助言】

- 室内の環境構成はよかった。
- 虫とり網の長さ・素材ともによいと思う。幼児組がモデルとなって虫の捕まえ方などが学べるようになるとうい。
- 幼児組への移行について、どのように行っていくのか考えていって欲しい。
- 一人一人の遊びの時間を保障して欲しい。

#### 【今後の課題】

- 幼児組とのかかわりを増やし、スムーズに移行できるように職員間で連携を図っていく。
- 子ども達が、『今日もたくさん遊んだね』『楽しかったね』『明日が楽しみだね』と思える援助や環境構成を心掛けていく。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>「虫を作りたい」と虫作りが始まり、室内でも虫取りごっこを楽しむ。</li> <li>戸外に出ても虫取りがブームで、高い木の上にいるセミに興味を持つようになった。「取って」「ちょうだい」と、幼児さんにおねだりしている。</li> <li>幼児組のお兄さんの後を追い、真似をしてセミを捕まえようとする姿が出てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作に必要な材料を用意する。</li> <li>○一人一つ虫取りかごを用意し、雰囲気を作る。</li> <li>○虫取り網の柄を少し長くする。</li> <li>*年長児にセミの捕まえ方を聞き、一緒に遊ぶ機会を作る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「できない」「やって」が気になる。どうしたら、『やってみよう』になるかな？柄を長くしてみようかな。</li> <li>・視野が広がってきた！ (地面～木の上)</li> <li>・セミは触れないけれど、小さい虫なら触れるようになってきた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児のラーメン屋さんごっこに興味を持ち、見に行く。</li> <li>・保育者と一緒に「入れて」と声を掛けると、「いいよ」と言ってもらい、お客さんになって一緒に遊んだ。</li> <li>・異年齢児とのかかわりが増えて来ると自然と仲間に入れるようになってきた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「仲間に入れてもらおうね」と遊びに誘ってみる。</li> <li>*保育者もお客さんになったり、傍で見守ったりして、安心して遊べるようにする。</li> </ul>  <p>4歳児を真似て木登り中</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーメン屋さんごっこに入りたいみたい。誘ってみよう！！</li> <li>・黄色帽子のお友達と一緒に遊んでもらって、楽しそう。</li> <li>・幼児組のお友達に慣れてきたのかな？幼児組さんも自然に受け入れてくれるからありがたい。でも、もっとかかわりを増やしたいな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日は〇〇するんだよね」「楽しみだね」と活動を楽しみにするようになる。</li> <li>・好きな場所で好きな遊びを十分に楽しむ。</li> <li>・遊び終わった時に「楽しかったね」「いっぱい遊んだね」と言いながら入室したり、片付けたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*翌日の予定を知らせるようにする。</li> <li>○遊びの時間を十分に確保する。</li> <li>*天気の良い日は、早い時間から戸外に出たり、おやつを食べ終えた子から遊び始めたりできるようにする。</li> <li>○興味に合わせてコーナーを増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌日の活動を知らせることで、家庭でも「〇〇楽しみ」と次の日を楽しみにしているみたい。明日(未来)への期待が持てるようになってきた？</li> <li>・「楽しかったね」と言ってもらえると嬉しいな。「楽しかった」として自然と出た時は、満足できたのかな。</li> </ul> 

**全職員で話し合って・・・**



興味に合わせてコーナーが充実していて楽しそう！

一人一つの虫取り網とかごを用意することで、より生き物に興味を持てたのでは？

虫取り網を作るなんてすごい！！

好きなコーナーで遊ぶ中で、友達とのかかわりが増えてきたね。

ラーメン屋さん室内でも招待されていたら、どうだったかな？




**【考察】**

- ・子どもの興味や遊ぶ姿に合わせ、コーナーを設定したり、用具を用意したりしてきた。子どもの何気ないひと言や繰り返し遊ぶ姿を探り、玩具やコーナーを増やしたり、一緒に作ったりすることで、やってみたい・遊びたいという気持ちが高まっていったように思う。
- ・虫取りごっこでは、一人一本虫取り網を用意したことで、子ども達は『自分の物』という安心感と満足感に包まれ、虫取りの雰囲気を楽しめることができたのではないかな。また、安全な素材を使い、身長にあった長さで作ることで、「危ない」と注意する必要がなく、子ども達も伸び伸びと遊びを楽しむことができたように思う。
- ・第1回目の巡回指導で『一人一人の遊びの保障をして欲しい』と助言を頂き、遊びの時間の保障や中断させないことを心掛け保育をしてきた。遊びの保障ができていたのかは確かではないが、遊びを終えた子ども達から自発的に「楽しかったね」「いっぱい遊んだね」「明日もやろうね」という声が出てくるようになってきた。そういった声や笑顔を増やせるように常に心掛けていきたいと考えている。

0・1歳児年間ねらい 【いろいろなことに興味や関心を持つ。】

【背景】・雨天時の室内遊びにトンネル潜りやスポンジ平均台を出して運動遊びをして楽しむ。平均台に興味を持った1歳児は、平均台を保育者に見守られながら渡り楽しむが、次第に飽きてしまい、保育者が平均台を四角に折り曲げると「お風呂♪」と言い、お風呂ごっこを楽しんだ。お風呂ごっこのイメージから水に興味や関心を持った1歳児の姿をくみ取り、室内で常に楽しめる環境を考えていった。



子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>1歳児の子を中心に潜ったり、指を差したりして、興味を持つ姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育室にスズランテープのカーテンや海の生き物を貼り出す。</li> <li>*子どもの反応に合わせて発見に共感したり、一緒に楽しんだりしていく。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○0歳児の子が興味を持つにはどうしたらいいのだろうか？</li> <li>○暗くて狭い場所は0歳児には入りにくいのかな？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○0歳児の子も1歳児の子の姿を見て興味を持ち、自分からコーナーに行き潜ったり、指を差したりする姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育室の環境を変え、0歳児の目線に合わせた場所（明るい場所）にもカーテンをつけたり、コーナーを設定したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明るい場所にすることで、0歳児の子も興味を持てたのかな？</li> <li>○環境を変えると子どものどんな姿が見られるか楽しみだな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞紙遊びからシンバイザメを制作して遊ぶ。</li> <li>○1歳児の子を中心に指を差したり、眺めたりする姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞紙遊びからつながるように子ども達が乗れるようなサメを制作する。</li> <li>○海の生き物の図鑑を子ども達の目線に合わせて室内に貼る。</li> <li>*子どもの問いかけに耳を傾け、共感し、声を丁寧にかけて対応する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども達が興味を持って遊んでくれて嬉しいな。環境を整えることってとても大切なんだな。</li> <li>○高年齢児向けかな？と思ったが、図鑑に興味を持っているな。思い込みはよくないな。</li> </ul> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>○タライの中の海の生き物に興味を持ち、持ったり釣ったりを楽しむ。</li> <li>○経験したことを覚え、自分で遊びを選択して楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室内で魚釣りができるようにタライや釣竿を各年齢が楽しめるように工夫して環境を整えていく。</li> <li>○選択できるような環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験した遊びを自分で選択して楽しめるようになってきて嬉しいな。今後も自分で選択できるように環境を工夫していきたい。</li> </ul>

クラス全体で水族館ごっこを楽しみ、魚釣りを楽しんだ1歳児は釣った魚を料理して”お寿司屋さんごっこ”が始まった。机やバンダナを用意すると更に遊びが盛り上がり…水族館ごっこからつながって遊びを楽しんでいる。

巡回指導を終えて・・・



月齢が全く違う子が同じ室内で過ごしているので、みんなが楽しめる環境を今後も考えていきたいな。

運動的な遊びを室内の環境にどう設定したらいいかな？




室内の中の環境を今後どう変化させていこうかな？

【巡回指導 助言】

- ・様々な月齢の子が同じ環境にいる中で、それぞれの発達にあった遊べる環境が提供できていてよかったので、今後は動きを楽しめる環境も取り入れていくとよいのではないかな。
- ・子どもの興味を拾って好きな遊びを選択できる環境作りを今後も続けて欲しいと思う。

【今後の課題】

- ・様々な月齢の子がいるので、選択できる環境を子どもの興味から今後の環境を考え、探っていく。

子どもの姿	保育者の援助(*)・環境構成(O)	保育者の気づきや思い
<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本コーナーの“やさいのうた”の絵本に興味を持ち、保育者に“読んで”と絵本を持ってきて、保育者と一緒に言葉や動きを繰り返し楽しむ子が多くなってきた。</li> <li>同じ絵本が好きで取り合いになることもある。</li> <li>0歳児は水族館コーナーが好きで、中に入って指を差したり顔を出したりして楽しんでいる。</li> </ul>	<p>○絵本コーナーの絵本を新しいものに変えていった。</p>  <p>○様々なコーナーを選択して楽しめるように室内のコーナーを工夫していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“やさいのうた”の絵本が好きな子が多いな。繰り返し読んで楽しめるようになるとどんな姿が見られるようになるのかな？</li> <li>絵本だけでなく子ども達の興味のあるものを遊びにつなげられるようにしたいな。</li> <li>水族館を継続したことで、0歳児も楽しめてよかったな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>畑に興味を持ち、保育者と一緒に野菜の種まきをして、毎日生長を楽しみに水やりをする。</li> <li>0歳児の子も1歳児の子の姿を見て、興味を持ち、触りに行ったり見に行ったりする姿が見られ、その子なりに楽しんでいる。</li> </ul>	<p>○室内のコーナーに畑を設定し、ジョウロを用意していく。</p> <p>*畑の野菜の生長が楽しめるように、子どもの発見や気づきに共感をしていき、一緒に楽しめるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内に畑のコーナーを作ったらどうなるのかな？子ども達の反応が楽しみだな。</li> </ul> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜ができると喜び、遊びの中で収穫をしたり、歌をうたったりして楽しむ。</li> </ul>	<p>○野菜の生長が感じられるように花や実を少しずつ付けて、観察が楽しめるようにしていく。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜を用意すると、観察や収穫を楽しめてよかった。遊びがどんな風に変わってくるか楽しみだな。</li> <li>異年齢児の子が好きな遊びを選択できる環境となってきたかな？</li> </ul>

野菜コーナーを用意したことで遊びが発展し、ままごとコーナーでごっこ遊びが始まったり、リズム遊びもより楽しんだりする姿が見られるようになってきた。

### 全職員で話し合って・・・



### 【考察】

- 子どもが興味を持ったものを広げ、室内に畑を用意したことで野菜の生長観察を楽しむことが十分にできたように思うが、もっと早い時期に実際に畑に出向き、異年齢児と交流を持って野菜の生長観察や収穫を楽しめたら、子ども達はどんな反応が見られたのか考えると共に環境設定の大切さを感じた。
- 水族館コーナーを保育室内に継続したことで、0歳児が1歳児の様子を水族館から見て、1歳児をモデルに0歳児なりに遊びを楽しめるようになったと考えられる。
- 発表会に野菜の生長を繋げていき、今後遊びの継続をどうするのか職員間で話し合っていきたいと考えた。



【年齢別の成果と課題】

	成果	課題
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導で、自分達でトラブルを解決したり、興味や関心から調べたりできるようになるのではないかと助言を頂き、子ども達自身で考えられるように保育者はなるべく傍で見守り、必要に応じてアドバイスや一緒に考えていくことにした。この結果一人一人が意見を出す機会が増え、トラブルも少しずつみんなで解決できるようになってきた。</li> <li>・染物という経験では失敗を機に更に考え、意見を出し、それを行ってみるなどのよい経験となり、今年のねらいに近付けたのではないかなと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で少人数で活動することにより、他の年齢とのかかわりが希薄になってしまった。少人数だからこそ異年齢児を巻き込み、遊びや活動を盛り上げていたらよかったのではないかなと思った。</li> <li>・巡回指導後、職員間で話し合い、年齢別で過ごすことに重点を置き、活動を進めた。保育室の問題から4月から再び縦割り保育となっていくが、移行する時期やクラス担任から年齢別担当へ変わるなど職員間で十分に話し合うことが今後の課題となってくるのではないかなと思う。</li> </ul>
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気付きに保育者が小さな投げ掛けをしたことで、子どもの“やってみたい”の思いが生まれ、少人数では自分の思いを十分に伝え合い、工夫しながら遊べるようになった。</li> <li>・一つの遊びを継続して遊ぶ中で「明日は〇〇したい」と次へとつながる遊びができた。</li> <li>・子ども同士で遊び方の伝え合いができてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数で始まった遊びが大きくなり、子どもの人数が増えてきた時、それぞれの思いをどうまとめていくか子どもが自分の考えや思いを伝え合える機会を作り、それぞれが一つの遊びに満足できるように遊びを見守っていく。</li> <li>・もっと異年齢児とのかかわりを深め、遊びを広げていき、年長児への憧れの気持ちや期待感を感じて生活できたらよかったと思う。</li> </ul>
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が自ら必要なものを作って、遊びを進められるようになってきた。</li> <li>・他の年齢がやっていることを見て、「やってみたい」と挑戦・遊ぶ姿が見られるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外では異年齢児とのかかわりが見られるが、室内は他の年齢とのかかわりがあまりなく、様子がわかりにくかった。生活でも遊びでも年上の子を見て学ぶ機会を作っていきたい。</li> <li>・子どもの“やりたい”を見極め、子ども達が満足して遊び込めるような環境作りをしていく。</li> </ul>
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの興味に合わせて、コーナーを設定したことで好きな場所で好きな遊びを十分に楽しむ姿が見られた。</li> <li>・遊びを通じて、友達とかかわって遊ぶ楽しさを知り、その中で自己を十分に出せるようになってきた。</li> <li>・異年齢児のしている遊びに興味を持ち、近くに行ってみたり、真似したりするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が遊びに満足できるよう、個々のタイミングで入室できるようにしたが、給食・午睡など時間に限りがあり難しかった。今後は更に遊び込める環境作りや援助を考えていきたい。</li> <li>・戸外では異年齢児と場を共有して過ごしていたが、かかわりが少なかったため、幼児組と接する機会を増やし、自然と幼児組の遊びに興味を持てるように働き掛けていく。</li> </ul>
0・1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが気付き、手にすることや保育者の話し掛けで繰り返し伝えることで、遊びが広がってきた。</li> <li>・海の生き物や野菜など、室内でも遊びができるよう工夫することで、自由に遊びができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が“やってみたい”と思えるような環境作りや声の掛け方を職員間で話し合い、見直していく。</li> <li>・様々な月齢の子と一緒に生活する中で、興味や発達に応じて遊びを継続したり、次の遊びも楽しんでいけるように今後も見守っていく。</li> </ul>

【園の成果と課題】

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児組は後半に年齢別で過ごすことで、同年齢児で同じ目的に向かって活動を進めることができた。</li> <li>・テーマを年齢別に立てたことで、各年齢どこを目標として進めていくか明確になったように思う。</li> <li>・職員間で期ごとのエピソードや書面・話し合いを通してコミュニケーションの場となり、子ども理解だけでなく職員同士のつながりも大切に進めることができた。</li> <li>・自分の思いを口に出して言えなかった子が、思いを伝えられるようになり、意見を出したり相談したりして話し合いを進めていけるようになったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同年齢児の遊びが盛り上がった一方で、異年齢児のかかわりが少なくなり、どのように保育が展開されているのか様子がわからなかった。</li> <li>・サブテーマに沿って保育を展開し、見直すことができたが、今後年度の切り替えにあたり、子どもの様子を追っていく難しさを感じた。</li> <li>・環境の変化により散歩に出掛ける機会が減り、園庭で遊ぶことが多くなったが、幼児と乳児のかかわりが少なかった。</li> <li>・年齢別で過ごすための保育室が足りず、環境を整えるのが難しい。</li> </ul>

### 【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの最善の利益の考慮</li> <li>●組織としての基盤の整備</li> <li>●社会的責任の遂行</li> <li>●健康及び安全の管理</li> <li>●職員の資質向上</li> </ul>	<p>子ども一人一人の気持ちを受け止め、寄り添い子どもの気持ちをくみ取ることの大切さを全職員が共通理解し、日々子ども達のやってみたい、やってみよう、考えようの意欲を育めるような環境や援助を所全体で取り組んできた。外部講師のアドバイスを参考に職員全体で所内研修を重ね、子どもの興味や関心を広げられるような環境構成を考慮し、保育の質を高められるように努めた。</p>
--	---

### 【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的な計画</li> <li>●指導計画</li> <li>●週日案</li> <li>●学級経営案</li> </ul>	<p>共通カリキュラムに基づき、全体的な計画、学級経営案、月指導計画、週指導計画を作成し、日々の保育を振り返り、今後の保育に活かせるようにしている。今年度は、様々な制限がある中で、計画通りにはいかないこともあったが、柔軟な対応や工夫をして楽しめるように保育を展開していった。</p>
--	---

### 【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援</li> <li>●地域の保護者に対する子育て支援</li> <li>●地域における連携交流</li> </ul>	<p>コロナ禍で保護者の不安を取り除けるように思いを理解することに努め、コミュニケーション不足にならないように丁寧な対応を心掛けた。今年度は、月4回行っている園庭開放や地域における交流事業がコロナ禍のためできなかった。</p>
--	---

#### 【まとめ】

昨年までの所内研修で主体的に遊べる子を育てるためにはどうしたらよいか考えていった中で、まだまだ受動的に行動する子が多かったため、今年度はサブテーマを【やってみたい・やってみよう・考えようからのつながる保育】とし、主体的な発言や能動的な行動が見られるようになるためにはどうしたらよいか、職員間での話し合いや共有を大切に、所内研修を行っていった。

年齢ごとにねらいを設定したことで、ねらいを意識しながら子どもの遊びの様子を見逃さずに興味や関心が持てるような環境設定や援助をした。その中で保育がどのように展開していったか、巡回指導も含め日々の保育での振り返りを大切にすることで、職員間で共通理解をすることができたように思う。保育について話し合う機会を多く持てたことで、子どもの姿に寄り添った保育を保育所全体で心掛けることができ、子ども達が自分で“やってみたい！やってみよう！考えよう！”と一人一人が意欲的になり、行動できるようになってきた。

今年度は時間外保育職員も所内研修に参加をしたことで、より一層保育所全体で共通理解をすることができ、共有することや保育の振り返りをする大切さを改めて感じる事ができたので、保育の質の向上につながる事ができたように思う。保育所全体での自己評価も職員間で見直すことで、様々な観点から保育所自体の自己評価に活用することができ、肯定的で風通しのよい環境づくりが次へとつながる評価となったように思う。

また、保育について話し合うことで課題が明確になり、今年度だけではなく次年度以降も子どもの姿を追っていき、一人一人が保育所での経験により生きる力が育めるように、今後も所内研修や日々の保育を通して保育の振り返りをし、職員間で共有をしたり、連携を取ったりしながら、よりよい保育につながるようになっていきたいと思います。

# 令和2年度 所内研修まとめ

共通テーマ  
「生きる力を育む」  
第4保育所サブテーマ  
「自己肯定感を高める援助を探る」



東金市第4保育所

テーマ「生きる力を育む」

サブテーマ「自己肯定感を高める援助を探る」

<現在の子どもの姿>

- ・少しずつ自分達で好きな遊びを見つけ、遊べるようになってきた。
- ・遊びの場面では少なくなっているが生活の中では「トイレに行っていていいですか」など保育士にやってもいいか確認する子もいる。
- ・異年齢で関わる姿が少ない。
- ・自信がなく、いつも保育者のそばにいる子がいる。

<保育士として>

- ・生きる力を育むためには、子どもが自分で考え、動くための基礎である自己肯定感を高めることが大切。
- ・保育者の関わり方や連携など見直していく必要がある。



サブテーマ

「自己肯定感を高める援助を探る」

<研修内容>

- ・子どもの姿から自己肯定感を細かく一つ一つ読み取り、必要な援助を探る。
- ・保育者同士が子どもの主体的な遊びから何が育ち、どんな意味をもつのか考える。
- ・保育者の関わり方や連携など見直していくことから援助方法を探る。
- ・遊びの面と共に生活面での援助も意識し、工夫していくことで子ども達の自己肯定感の高まりに目を向ける。

<研究方法>

- ・日常の気になる場面を記録した資料を作成し、その場面の解釈をし、子どもの育ちにどのような意味をもつのか話し合う。そこから一人一人の自己肯定感を高めるための援助を話し合っていく。

◎所内研修の経過

<年5回実施>

	内容
第1回 (4月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の所内研修のよかったこと・反省点</li> <li>・サブテーマについて話し合い、決定する。</li> </ul>
第2回 (6月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己肯定感」について各自で調べたことを持ち寄り、共有する。 →自分で調べてから職員間で共有したことで「自己肯定感」について共通意識をもつことができた。</li> <li>・エピソードの様式についての話し合い →エピソード、はたらきかけ、その後の様子、考察の項目を設定する。</li> </ul>
第3回 (7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードについての話し合い（3歳児） →頑張っている姿や過程などを認めていくこと、保護者との連携の大切さ、活動は発達に合っていたかについて意見交換をしていく。</li> </ul>
第4回 (11月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードについての話し合い（2歳児） →子どもの発想などを求めて、待つこと、否定せず受け止めていくこと、また、保育者の考え方、捉え方、心の持ち方、ゆとりについて話し合う。</li> </ul>
第5回 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードについての話し合い（5歳児） →いろいろな経験を積み重ねていくこと、子ども達の話し合い、保育者の待つ姿勢などについて話し合っていく。</li> </ul>

◎エピソードの話し合い方法について

- ・正規職員が資料を作成。（取り上げたい場面で写真を撮れない場合があることや研修のための写真になってしまうという意見から写真の掲載なし。）
- ・全員に配布し、取り上げるエピソードを投票にて決定する。  
（前年度の反省の「一つの事例についてじっくり話し合う時間が欲しい」という意見から一回の研修につき1つのエピソードを取り上げるようにする。）
- ・正規・会計年度・支援員を数名ずつ混ぜた2グループに分け、付箋に記入したエピソードについての意見をもとに話し合いを行った。
- ・全職員での共通理解を深めるため、時間外担当職員にも資料を配布し、意見を募った。

### <エピソード>

- ・友達と遊んだり、かけっこをしたりするのが好きな子ども達。不安な時や、かけっこなど負けてしまいそうな時など泣いてしまうことも多い。悔しくて泣いたことや負けたことなど家庭で言われることもあるようだ。
- ・イス取りゲームも好きで、ゲームを始めると集中して楽しんでしたが、負けることが続くとゲームに誘うと「やらない」と参加しなくなる子もいる。ゲーム中は少し離れたところから様子をみている。

### <はたらきかけ>

- ・負けたくないという気持ちが大きいのではないかと思い、「できない」「やらない」には「今日は勝てるかも」「やってみようか」となるべく前向きな言葉かけをしていく。また家庭で言われたくないという面もあるのだろうと考え、「負けても大丈夫」「次もまたやってみよう」と受け止めながら次につなげられるような言葉かけを心がけていった。
- ・自分も勝てると思えるよう、少人数でゲームを行った。

### <その後の姿>

- ・初めは楽しそうな姿が見られたがゲームが進んでいくと「もうやらない」と泣く子がいる。「〇〇くんも上手だから勝てるかも」「負けてもまた次にやろうよ」と声を掛けると「うん」と挑戦し、初めて勝つことができた子はとても嬉しそうだった。降所の際、保護者にその様子を知らせると「泣かなかった?」「勝ったの?すごいね」と褒められ笑顔が見られた。次のゲームにも進んで楽しそうに参加する姿があった。

### <考察>

- ・「負けても大丈夫だよ」「次もやってみようね」と不安な気持ちを受け入れながら前向きな言葉かけを行っていったことで少しでも「やってみよう」と思うことができ、ゲームに楽しく参加できたのではないか。
- ・勝てないと思っていたがみんなと一緒に遊び、勝ったことで自信に繋がったのではないか。
- ・保護者にゲームを楽しんでいる姿や頑張っているために泣いてしまったことなどなるべく丁寧に伝えていく必要があるのだと感じた。
- ・簡単なルールのある遊びを楽しんでいるが、まだルールを守ることが難しい子や悔しい気持ちをうまく落ち着けられない子が多いので少人数で数回にわけて行い、一人一人に向き合い、受け止めていくことでゲームを楽しめたのだろうと思う。また、回数を重ねることで勝てる子が増え、自信に繋がる機会が増えると考え。子どもの姿に応じてグループを作り、楽しめるようにしていきたい。

## 【寄せられた意見】

「やりたい」「やりたくない」気持ち、どちらも大切にしながら自信をもって楽しく取り組めるような言葉掛けはよかった。

子どもの気持ちや感情を言葉にしていくといいのではないか。（「負けると悔しいね」「うれしいね」など）

頑張っている姿や過程を認め、言葉で伝えていくことで自分はこれでいいと思えるのではないかと。



保護者に様子を伝えていくと同時に頑張った姿を認めてもらうよう働きかけていくのもいいと思う。

なぜ自信がないのか、泣いてしまうのか、子ども一人一人の家庭状況に配慮しながら考えていく。

また、保護者の願いや思いも大切にしながら子どもの日頃の様子、頑張っている姿を丁寧に知らせていく。

その子の年齢や発達にあった活動だったか見直していく。

子どもそれぞれが中心となれる活動を取り入れていく。一つずつ行っていく、少しずつ得意な、楽しめる活動を増やしていく。

## 《その後の取り組み・子どもの姿》

話し合いを受けて、自己肯定感とはどういうことなのかがよりはっきりとわかってきたように感じる。子どもが「できた」体験ができるように活動の内容などを工夫していくことに繋がった。今までも気を付けてきた「認める」「褒める」などのかかわりを引き続き行っていく。いろいろな活動の中でうれしかったことや悔しかったことなど、気持ちを言葉にして知らせていったり、頑張っている姿を認める声掛けをしていったりと言葉で伝えていくように心掛けていった。また、家庭との連携の大切さを実感し、日々の様子や頑張っている姿を送迎時やポートフォリオなどで丁寧に知らせていくようにしている。直接話す機会がなかなか作れない保護者にも頑張っている様子を知らせてもらうような声掛けをしていっているが家庭での変化はあまり感じることはできない。保護者に子どもの姿を伝えたり、保育所の取り組みなどについて知ってもらったりできるようにしていきたい。子どもたちが活動の際、自信がなく「やりたくない…」「できないよ…」となることも少なくなり、色々なこと取り組もうとする姿が見られるようになってきている。

## 【寄せられた意見】

「やりたい」「やりたくない」気持ち、どちらも大切にしながら自信をもって楽しく取り組めるような言葉掛けはよかった。

R くんのお気持ちや感情を言葉にしていくといいのではないかと。(「負けると悔しいね」「うれしいね」など)

頑張っている姿や過程を認め、言葉で伝えていくことで自分はいかかかではないか。

保護者に様子を伝えていくと同時に頑張った姿を認めてもらうよう働きかけていくのもいいと思う。

なぜ自信がないのか、泣いてしまうのか、子ども一人一人の家庭状況に配慮しながら考えていく。

また、保護者の願いや思いも大切にしながら子どもの日頃の様子、頑張っている姿を丁寧に知らせていく。

その子の年齢や発達にあった活動だったか見直していく。

子どもそれぞれが中心となれる活動を取り入れていく。一つずつ行っていく、少しずつ得意な、楽しめる活動を増やしていく。

## 《その後の取り組み・子どもの姿》

話し合いを受けて、自己肯定感とはどういうことなのかがよりはっきりとわかってきたように感じる。子どもが「できた」体験ができるように活動の内容などを工夫していくことに繋がった。今までも気を付けてきた「認める」「褒める」などのかかわりを引き続き行っていく。いろいろな活動の中でうれしかったことや悔しかったことなど、気持ちを言葉にして知らせていったり、頑張っている姿を認める声掛けをしていったりと言葉で伝えていくように心掛けていった。また、家庭との連携の大切さを実感し、日々の様子や頑張っている姿を送迎時やポートフォリオなどで丁寧に知らせていくようにしている。R くんのお母さんにも父にも頑張っている様子を知らせてもらうような声掛けをしていっているが家庭での変化はあまり感じることはできない。保護者に子どもの姿を伝えたり、保育所の取り組みなどについて知ってもらったりできるようにしていきたい。子どもたちが活動の際、自信がなく「やりたくない…」「できないよ…」となることも少なくなり、色々なこと取り組みようとする姿が見られるようになってきている。



2歳児 9月

場面：音の発見

### <エピソード>

・連休中、動物園に行った子どもが何名かいて「らいおんががおーってしてたの」と友だちや保育者に話をしたり、絵本を見ながら鳴き声を言ってみたりと音に興味をもったようだった。戸外に行くちょっとした待ち時間に、ブタやゾウ、カエルの鳴き声クイズをしてみた。他のものにはどんな反応をするのかと思い、“おほしさまは？”「きらきら～ひかる～だよ」や“あめのおとは？”「さー！」「ぼったんぼったんだよ」と思い思いの言葉が返ってきたので否定せず聞き、“かぜのおとは？”「…」反応がなかった。ちょうど風が吹いていた日だったので、“風の音を聞きに行こう！”と戸外へ出ると、数名から「かぜはかんかんだって！」と旗の棒に金具が当たりカンカンと音が響いているのを聞き教えに来た。

遊んでいると雲が出始め、雨が降ってきた。おままごとテーブルのベンチにみんなで座っていたので、雨粒の様子がテーブルにできたのを見て「あ！あめ！」「いっぱいまるー！！」と雨の形に気づき、そのまま雨宿りとなった。大雨の音「ざー！！」や小雨の音「さー」の音の違いに気づいた子どもたちが嬉しそうに伝えてきた。

### <はたらきかけ>

・動物の鳴き声や自然の中の感じる音は、聞こえ方に違いがあると思ったので、“こういうのもあるね”“ほかにはなんだろ”と否定的な言葉は使わないようにした。

・ちょっとした待ち時間だったので保育者との距離も近くおしゃべり感覚でできたのと、みんながわかる動物から始めたので発語が少ない子どもでも答えやすかった。

### <その後の姿>

・その日は入室後も雨の音について子ども達や保育者に「さっき、ざざざーってしたよね」「ざー！！ってしてたよね」と窓の外を見ながら興奮気味に教えあう姿が見られた。後日も小雨の中外に行きたいと雨宿りしたことが強く残っているようだった。

音に興味を持ち始め、ゴミ収集車とトラックの走る音を見える前から聞きあてることができたり、戸外から虫の鳴き声が聞こえると「なんかきこえる…」と音に反応し子どもたち同士で楽しむようになった。

### <考察>

- ・擬音は言葉があまり出ない子どもでも、発音しやすいので、みんなで楽しんで発音したり友だちの言葉を真似して言ったりすることで発語にもつながったのではないかな。
- ・今後も小雨の中の園庭散歩やデッキでコップやお皿などを使って音や変化を感じられるよう雨の日も工夫して楽しめるようにしていきたい。
- ・動物の鳴き声はこう、自然の音はこうと大人の言葉で決めつけるのではなく、子ども達の発想や聞こえ方を大切にしていくことで、否定されず、「こう言ってもいいんだ」と自分の言葉に自信をもち、発語に繋がっていったのではないかな。
- ・隣や近くの子が言うのを聞き、自分も言ってみようという思いになったのではないかな。何気ない言葉を発せられる機会は大切だと思ったので子どもの声に耳を傾け、共感することの大切さを改めて感じた。

【寄せられた意見】

子どもの気づきをしっかりと受け止めている。  
ちょっとした会話から音に興味をもち、発見で  
きたのはよかった。

発想や感じ方を否定しないことで、自  
分の発言を受け止めてくれる嬉しさ  
を感じられたのではないか。

子どもの発想を求め  
て、しっかりと待つ  
ことが大切。

保育者の考え方、捉え方、  
心の持ち方、ゆとりが大  
切。

子ども同士で意見を否定する  
ことを言うてしまうことがあ  
るので、その都度対応していく  
必要があると思う。

ゆったりとした活動の中で子ども  
の思い思いの言葉を否定せずに受  
け止めていったことで子どもが発  
言しやすかったのではないか。

《その後の取り組み・子どもの姿》

車が「ガガってきたね」「ブーンブーンって言うたね」やヘリコプターが「ドドドっていつてるね」「バタバタ…してたね」など音をよく聞こうとするようになった。自分で感じた擬音を言葉にして聞いてもらう姿も見られ、あまり自分から話さない子への刺激にも繋がっているようだった。思いや気持ちを受け止めてもらう安心からか、自分の身近な周りにも興味が出てきて、雨から「(風が) ビューンってしてた」「(空) 白いね」「(葉っぱ) サラサラってなってるね」「(霜を踏んで) ポキポキっていった」と感じたことを表現できるようになった。室内外の電話や放送など、もっと聞きたいことがあると「しー!」「静かに!」と聞き耳を立てて聞こうとしていていろいろな物に興味関心が持てるようになった。

### <エピソード>

クラスの傾向として、意見の衝突を避けたり、大人の顔色を窺って主張をすぐに取り下げてしまったりすることが多い。やりたいことを、友だちと衝突しながらも自力で達成しようとする姿勢を育てるにはどうしたら良いか、が課題であった。

11月から午後の活動が始まり、おやつ前には戸外で遊んでいることが増えた。その日は天気が良く、子どもの一人から「お外でおやつを食べたい」という提案があった。担任が「外で？」と問うと、マスクで表情が見えないこともあってか、すぐに「あ、だめか。」と笑ってごまかすようにして意見を取り下げようとした。そこで、「何を準備したらできると思う？」と質問すると、昨年、お花見として外でおやつを食べた経験のある子や、昨年の年長児が外で食べていたのを見ていた子達から、「レジャーシートいいんじゃない?」「どこにあるの?」「コップいるかな」「どこでやる?」など、発話が盛んになっていった。

### <はたらきかけ>

今回は、担任は準備に参加せず、あえて自分から行動せずに見守りの態勢をとった。その上で、「必要なものがあたら手伝うから言ってね」と、協力はするが、子どもたちが自分たちで進めなければ実現できないという状況を示していった。保育者の行動はあくまで子どもたちにとっての手段となるよう意識した。

### <その後の姿>

はじめはどうして良いかわからず、相談の場から離れて遊びに行ってしまうたり、やりたいことを言うだけで実現への手立てまでは考えていない子がいたりもしたが、おやつの時間がせまるにつれ、実現に向けて相談する中心的なメンバーが現れた。相談の手立てとして、「手洗いはどうする?」「おやつはどこで配る?」など、質問していくと、こうしよう、ああしよう、でもここがうまくいかない、など、意見が活発に出るようになった。実際に準備する段階になると、遊びに行っていた子達も気づき、みんなでレジャーシートを敷いたり、テーブルを運んだり準備が進められていった。その日は初めてと言うこともあり、実際に食べ始めるまでには時間がかかってしまったが、その後は『割れない食器の時は大丈夫』という判断基準を示したことで、「今日は外で食べよう」と子どもたちから計画・準備をして実現できるようになっている。また、全員が外で食べているわけではなく、「暑いから中で食べる」と、自分で決めて入室する子もいる。12月には、シートを敷く場所について意見が割れ、それを多数決で決めようとする姿が見られた。

### <考察>

『自力で考え、実現する』という経験が得られるよう、常に見守る態勢をとった。内心では、無事におやつを食べるところまでたどり着けるか、下膳の時間に間に合うか等心配はあったが、『君たち次第だよ』という姿勢を崩さずに、泰然としていることを意識した。見守る・待つと言うことは、保育者にとっても我慢の時間だと感じた。しかし、それをしたことで、子どもたちも「自分でできた」という実感が得られたのではないかと思う。見守るということもれっきとしたはたらきかけであり、関わりなのだと思う。

また、意見の主張について、一人ひとりが臆せず自分の意見(気持ち)を表現するためには、結果的に採用されないことはあっても、意見の一つとして尊重される環境や経験が大切なのではないかと感じた。

## 【寄せられた意見】

「外でおやつを食べたい」という子どもの思いを聞き、実現に結び付けたことが“話を聞いてくれた”“やりたいことが実現できた”という経験になりよかったのではないかな。

「見守る」「一つの手段となる」保育を一貫したことがよかった。見守り続けたという結果が子ども達の自信に繋がっていったのだと思う。

子どもの意見に対して「なぜダメなのか」「なぜ良いのか」など理由を伝えていくことで次の発想や違う場面で活かされていく。

保育者が“待つ”ということを意識していくことが必要。年齢、発達に合わせた関わり方、経験があってこそその“待つ・見守る”なのでは

いろいろな経験を積んだ分、引き出しも多くなり、後々活かされていくのだと感じる。

実現できるかできないかではなく、小さなことでも考えて話し合う経験を重ねることが大切なのだろう。(容認できない活動を提案されたり、実行していたりした時は?)

## 《その後の取り組み・子どもの姿》

日々の保育の中で、「良いところを褒める」「失敗を否定しない」「達成感を感じられるようにする」など、これまでの取り組みを継続して行った。また、研修の中でアドバイスいただいた、容認できない活動を提案されたり、実行していたりした時の、「ダメな理由を伝える」という点も意識して保育していった。

活動の可否・善し悪しを保育者が断定的に決めるのではなく、なぜできないのか、なぜしてはいけないのかなどの判断基準を明確に示すことで、子どもたち自身がその判断ができるようになってきたことを感じる。言動の変容として、これまで多かった「先生、〇〇していい？」という問いが、「〇〇してくるね！」という報告に代わってきた。遊びも保育者が主導しなくても子どもたちで次々に展開していけるようになり、その姿を見守り、十分に認めることで「自分たちはおにいさんおねえさんになったんだ」「成長したんだ」という実感と自信になったのではないかなと思う。

子どもたちの成長は、発表会への取り組みでも感じられた。創作劇の制作の過程で、自分の得意なことを自覚し、また、他児の得意なことも認めながら、みんなが活躍できる劇を作り上げることができた。

## 【成果】

- ・エピソードに写真を掲載しないことで「自己肯定感を育む援助」について全員がじっくり考えられた。
- ・研修を重ねたことで、子ども達の姿から思いを汲み取ろうとする姿勢や、否定しない言葉掛けなど、保育の中で自然とできるようになってきた。
- ・自己肯定感とは何か、自己肯定感を育む保育者の援助とはどのようなものなのかを保育者が念頭におき、子どもとかかわることで、子どものありのままを受け入れ、否定するのではなく、自分で考えることができるような働きかけをするようになった。
- ・子ども自身がやっていいのかな？言っていないのかな？という様子は見られなくなり、やりたいことを存分に楽しんだり、やってほしいことを保育者に伝えたり、自分を表現することが苦手な子もじっくりと向き合い、安心できる環境、関係の中で自分の思いを伝えられるようになった。
- ・のびのびと好きな遊びを楽しんだり、身のまわりのことをやってみようとしていたりしているので、自己肯定感を育めるよう援助の仕方を探ってきたことはプラスになっていると思う。
- ・今までよりも、子どもたちの心の動きや内面の成長により意識が向くようになった。それにより、一人一人の子どもの理解も深まったように感じる。
- ・1つの事例を決めて職員間で話し合い、よい所を認めたり、悩みや迷っていることに助言をもらったりする場がもてたことでコミュニケーションが取りやすくなったように感じる。
- ・日勤の職員だけではなく、時間外職員にも事例を読んでもらったり、意見を出してもらったりしたことで子どもの話をするなどコミュニケーションが取りやすくなった。
- ・部屋を出ていってしまう子や、気になる子はいるが、クラスや園全体が落ち着いてきているように感じる。
- ・誰に対しても（子どもも大人も）優しい言葉掛けができるようになってきた。

## 【課題】

- ・発達や意欲に個人差があり、あまり意欲をもてない子に対して待ったり、寄り添ったりしきれない場面もあった。
- ・保育者にゆとりがないこともまだある。
- ・声掛けが多くなってしまう場面も多かったので、保育者間で話し合い、連携してその子のペースに対応するように心がけるようにしたが、時間に限りがあることもあった。
- ・子ども同士のかかわりの中で、他者を認めてあげられる子もいるが、自己主張のみの子も多い。
- ・自信に繋がった子もいる中で、自信がなかなか付かず一つ一つ確認する子もまだ数名いる。自分で準備しようとする、できる環境まで作っていけるようにしたい。
- ・保護者との連携は難しく、公立保育所だからこその難しさもある。具体的にどう対応していったらよいか考えていきたい。
- ・話し合う事例を3つに絞ることで一つの事例についてじっくりと話し合うことができた。しかし数を絞ってしまうことで取り上げられなかった事例もあるので、研修や事例検討の方法を見直す必要があるとも感じる。

### 【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの最善の利益の考慮</li> <li>●組織としての基盤の整備</li> <li>●社会的責任の遂行</li> <li>●健康及び安全の管理</li> <li>●職員の資質向上</li> </ul>	<p>保育者として子どもの最善の利益を考慮し、自己肯定感を育む保育を実践するために、情報共有を図りすべての保育者が共通理解・共通認識を持って保育に当たった。コロナ禍において徹底した感染対策、個人情報に配慮した健康観察等を行い、ヒヤリハットの記録なども活用し安全にも配慮した。所内研修を行ったことで子どもの理解にとどまらず職員同士が互いの保育の理解を深めることができ、自己研鑽に努めたことで、資質向上につながった。</p>
--	--

### 【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的な計画</li> <li>●指導計画</li> <li>●週日案</li> <li>●学級経営案</li> </ul>	<p>本市の保育理念・教育保育目標をもとに第4保育所のテーマ「自己肯定感を高める保育を探る」を常に考え、計画を作成し、実践・評価・改善を繰り返すことで、園全体で共通理解が生まれ、保育に統一性が出てきて安定した保育活動が営まれるようになってきた。時間に限りはあるが、話し合いを定期的に行い、今後もしっかりと計画・反省・評価を行っていきたい。</p>
--	---

### 【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援</li> <li>●地域の保護者に対する子育て支援</li> <li>●地域における連携交流</li> </ul>	<p>今年度はコロナ禍であり行事なども制限され、保護者からの不満もあったが、手紙を配布したりポर्टフォリオの掲示を行ったり、担任が丁寧に話をするなど保護者との信頼関係を築いてきた。園庭開放・世代間交流が中止となる中、食生活改善会と連携し手洗い教室を行ったり、お料理レシピを配布して食への興味を引き出す取り組みなども行うことができた。</p>
--	---

### 【まとめ】

昨年度までの研修では子どもの主体性を研究し、子ども達の遊びの場面での主体性ができてきた。今回は、4月当初の「〇〇してもいいですか？」と保育者に聞く子どもの姿や自信のない様子から『自己肯定感』に着目した。『自己肯定感』、言葉や意味は知っているが保育の中で育てていくにはどうしたらよいか、日常の場面の中で自己肯定感の高まりに繋がる場面を読み取り、子どもが自信をもって活動できる保育を目指し、保育者間でこれを確認していった。初めて取り扱うテーマのため共通認識を持てるよう、言葉の意味など各々が調べた内容を持ち寄り、保育者のかかわりによって子どもの動きや心情がどう変化するのかを話し合い、共有することから始めていく。また、昨年度の反省から、エピソード制作の方法や会議の行い方など変えていった。「一つのエピソードについてしっかり話したい」という意見があり、エピソードの数を絞り、一つのテーマについてじっくりと話し合いを重ねていった。保育者自身が「自己肯定感とは」を考え、保育を行っていったことで子どもの心の動きや成長に意識を向けられるようになり、子ども達の姿から思いを汲み取ろうとする姿勢や否定しない言葉掛けなど、日々の保育の中で自然とできるようになってきた。

昨年度に続き、時間外担当職員にもエピソードを読んでもらったり、意見を出してもらったりした。支援員の多い時間外担当職員にも保育者の取り組みや思いなど知ってもらうことで子どもの姿や援助について話すことも増えてきたように思う。少しずつではあるが子ども達への対応の共通理解が持てるようになってきている。

今回の取り組みから子ども自身が「やっいいいかな?」「言ってもいいかな?」という様子は見られなくなり、子ども達がやりたいことをのびのびとやってみようとしたり、保育者にやってほしいことを知らせたり、思いを伝えようとする姿が見られるようになってきている。自己肯定感はずぐに育ち、結果が見えてくるものではない。保育者が子ども一人一人の心の動きに寄り添い、かかわっていく姿勢を引き続き大切にしていき、日々の保育をよりよいものにしていきたい。

# 令和2年度 園内研究まとめ

共通テーマ 「生きる力を育む」

サブテーマ 「遊びは学び ～人とのつながりを通して～」

東金市立福岡こども園

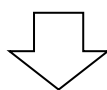
## 令和2年度 園内研究計画

### 共通研究テーマ 「生きる力を育む」

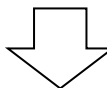
#### 福岡こども園サブテーマ 「遊びは学び ～人とのつながりを通して～」

#### 《保育者の願い》

- 【0,1歳児】・安定感をもって過ごす中で、保育者や友達と関わる心地良さや楽しさを感じながら、自分の気持ちを安心して表してほしい。
- 【2歳児】・保育者や友達のしていることに興味を持ち、自分からやってみようとする気持ちを持ってほしい。
- 【3歳児】・安心して園生活を送る中で、保育者や様々な友達とかかわりながら、一緒に遊ぶ楽しさやおもしろさを知ってほしい。
- 【4歳児】・安心する友達の存在を見つけ、遊びを通して様々な友達とかかわり、自分の思いを伝えられるようになってほしい。
- 【5歳児】・友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになってほしい。



昨年度の反省・保育者の願いを踏まえてサブテーマを決定



遊びは学び ～人とのつながりを通して～

#### 《仮説》

- 子どもの気持ちに寄り添い、信頼関係を築いていくことで、安心して自己表現することができるだろう。
- 夢中になって遊べる環境を作ることで、様々な友達と関われるようになるだろう。
- 遊びの中で様々な友達と関わっていくことで、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりできるようになるだろう。

#### 《手立て》

##### 【保育者の援助】

- ・一人一人の気持ちに寄り添い、信頼関係を築いていく。
- ・保育者が積極的に異年齢児の遊びに関心を持ち関わったり、遊びの場を共有したりしていく。
- ・子ども同士で思いを伝えたり、受け入れたりできるように、やりとりの橋渡しをしていく。

##### 【環境構成】

- ・好きな遊びを繰り返し楽しんだり、イメージを実現したりできるよう材料や用具・玩具を十分に用意する。
- ・人と関わる遊びを取り入れる。(絵本の読み聞かせ・ふれあい遊び・ごっこ遊び・集団遊び 等)
- ・異年齢児との関わりが持てるような共通の遊びの場の設定。

##### 【週案会議・保育記録の活用】

- ・週案会議を職員間の情報交換の場として、各年齢の遊びや共通の遊びを共有していく。
- ・保育記録や遊びのエピソード、事例研究から子どもの姿や思いを捉えていく。



## 《研究方法》

- 定期的に園内研究を行い、子どもの姿や遊びの様子を話し合い、職員間で共通理解していく。
- 事例研究を行い、職員の取り組みや思いを全職員で共有していく。
- 巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しをしていく。

## 《園内研究の経過》

☆サブテーマ「遊びは学び～人とのつながりを通して～」を念頭に置き、定期的に園内研究を実践してきた。

回	実施日	内 容	
1	4月15日(水)	クラスの実態についての話し合い 園内研究サブテーマ決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度当初の各クラスの実態について話し合いサブテーマを考えていく。研究計画を作成するにあたってサブテーマの捉え方や保育者の願いなど2回に分けて話し合いの時間を十分とることで、テーマについて共通理解できた。</li> </ul>
2	4月24日(金)	サブテーマの捉え方について話し合い	
3	5月 8日(金)	サブテーマについて共通理解 保育者の願い・仮説・手立て等について	
4	5月13日(水)	園内研究計画完成・提出	
5	7月13日(月)	現在までの子どもの姿や遊びの様子 事例研究の様式について話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度当初からの子どもたちの変化、意識した遊びの設定など話し合う。子どもの成長を実感し、各クラスの遊びについても情報交換ができた。</li> </ul>
6	7月22日(水)	第1回石井先生巡回指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指導を受け、全職員で反省点や改善点を話し合う。課題を意識し、環境を見直して、よりよい保育を目指す。</li> </ul>
7	7月27日(月)	巡回指導を受け反省・課題の話し合い	
8	11月24日(火)	現在までの子どもの姿や遊びの様子 事例研究について話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達との関わりが増えてきたことによって見えてきた子どもの姿、遊びの様子について話し合う。事例作成にあたって保育を振り返ることができた。</li> </ul>
9	12月 7日(月)	事例提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事例研究を行い、気付いたこと、成果や今後の課題について話し合う。事例を作成したことで自分の保育を見直すと共に、改善点や必要な手立てに気付くことができた。</li> </ul>
10	12月14日(月)	事例について意見交換(1グループ)	
11	12月16日(水)	事例について意見交換(2グループ)	
12	2月 9日(火)	1年間の成果と今後の課題 次年度に向けて話し合い 園内研究まとめの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年間サブテーマを意識し保育を行ってきて、各年齢での成果と今後の課題について話し合う。1年間の保育を振り返り、子どもたちの成長した姿や職員の意識の変化を共有することができた。反省を来年度の園内研究にいかしていく。</li> </ul>
13	2月18日(木)	第2回石井先生巡回指導 巡回指導後、保育の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今日の保育を振り返り、指導を受ける。年齢に合わせた保育者の関わりや援助の仕方を見直すとともに、遊びの場を再構成して、よりよい保育を目指していく。</li> </ul>

## ●第1回巡回指導を受けて

巡回の日は天気が悪く、戸外遊び中に雨が降ってきて、途中で入室することになった。

### (もも組：0・1歳児)

- ・子どもたち一人ひとりが落ち着いて過ごせていた。
- ・くぐれるダンボールや型落とし、手作り玩具があり充実している環境がとても良い。
- 用意した遊びに子どもたちがはまっていた。保育者が経験させたいことが遊びにつながっていく。
- ・保育者がそれぞれの遊びに分散してついていたり、子どもたちと同じ目線で遊んでいたりする姿が良かった。戸外で幼児と触れ合っている姿も自然だった。
- 保育者が楽しむ姿が子どもたちにつながっていく。
- ・0、1歳児にとっては静と動のバランスが大切である。

### (たんぽぽ組：2歳児)

- ・時間外のもも組からたんぽぽ組に戻る際、保育者が先に行き迎える方が安心するのではないかと。
- ・テラス側の窓の外にナナフシがいて子どもたちが興味を持って見ている。
- 珍しい生き物に子ども達も興味を持っていたので、みんなでテラスに出て見るか、飼育ケースに入れて室内で見るとよかった。そうすると凶鑑で調べたりする姿につながったのではないかと。子どもの姿に合わせて柔軟に対応していくことが大切。
- ・雨が降ってきて入室した後、寒天遊びがすぐに出ている。
- すぐにやりたい遊びがある環境が良かった。
- ・戸外では異年齢児と自然に触れあって遊んでいたのが良かった。

### (ひまわり組：3歳児)

- ・さくら組で作ってきたチョコバナナからお店屋さんごっこが始まる。
- 粘土をチョコバナナを立てる土台にしているのが面白かった。保育者がすぐにレジやエプロンを用意したことも良かった。ごっこ遊びでは保育者のさじ加減が大切。
- ・戸外遊びに出るのが遅かった。天気を事前に把握して保育することが大切である。
- ・戸外遊びから帰ってきたらすぐに遊び出せるように遊びの場を設定しておく。
- ・制作の机も出しておく。遊びによって机の配置や環境設定を変えていく。

### (さくら組：4歳児)

- ・雨が降ってきて入室した後、すぐに遊び出せる環境（制作遊びができる机）があるのが良かった。
- ・保育者が一つの遊びに長時間いたので、出たり入ったりしながら遊びに入っていけるようにすることが大切である。
- ・保育者からの指示を待っている。「〇〇しようね」が多いのかもしれない。
- 最小限の提案やAとBどちらにするか選ばせていくなども方法の一つ。少し自分で考えて動けるようにしていく。
- ・戸外での虫探しの場面では、子どもの動きを制限せずに見守ったほうが良かった。

### (ゆり組：5歳児)

- ・空箱を使った船作りでは、動くものを作るのが年長らしかった。作った船をすぐに浮かべられる環境や改良できるコーナーや材料が用意されているのも良かった。
- ・雨が降ってきて入室した際に、船遊びが片付けられてしまっていた。
- 船を浮かべるタライを屋根のあるところに移動させて、テラスにコーナーを残しておくともよかった。今日のような天気の日にはテラスもうまく活用するべき。
- ・何でも作れるような素材を用意しておく。自分で生み出して作って、それがごっこ遊びにつながるかも。

### (幼児全体)

- ・室内と戸外の遊びの継続性を意識して保育していく。
- ・制作遊びなど自由に作り出せる環境設定をしていく。
- ・天気によって色々な場面を想定し、それを頭に入れて環境設定をしていく。

## ●巡回指導を受けて今後の課題

### (もも組：0・1歳児)

- 子どもたちが安心して過ごせるように保育者間で声を掛け合って連携を取り合っていく。
- 身近な自然に触れていけるような環境を作っていく。
- 幼児組とのつながりを戸外遊びだけでなく室内遊びの中でどこまで作っていけるか。
- 静と動の活動のつながりを意識していく。

### (たんぽぽ組：2歳児)

- 子どもの興味が遊びにつなげていく。

### (ひまわり組：3歳児)

- 子どもの遊びや様子に合わせて机の配置や環境を整えていく。
- 自由な発想で作ったり、表現したりできるような制作遊びのコーナーを充実させていく。
- 室内、戸外と遊びが途切れないように意識して保育する。

### (さくら組：4歳児)

- 一人ひとりの個人差があるので保育者間の連携を密にとっていく。
- 子どもが指示待ちにならないように、声掛けの仕方を考えていく。
- いろいろなクラスの子が混ざり合って遊べるような環境作りを意識していく。
- 室内と戸外の継続性を意識して保育していく。

### (ゆり組：5歳児)

- 遊びの場としてテラスをうまく活用していく。
- 遊びの継続性を意識して、環境を整えていく。
- 保育者が指示を出すのではなく、自分達で考えて行動できるようにしていく。
- 保育者同士で連携を取り合っていく。遊びのねらいを持って保育していくようにする。





●事例研究

「人とのつながりを意識した遊びについて」(各年齢共通)

《1歳児》 時期 9月～11月 「真似から」

◎活動の経過

4月から生活やいろいろな遊び(絵本の読み聞かせやふれ合い遊びなど)を通して、保育者との信頼関係ができてきた。保育者との信頼関係ができてくると、少しずついろいろな遊びや玩具、友達にも目が向き興味をもつようになってきた。また、保育者がすることに興味をもち、やってみようとする姿がみられるようになった。

子どもの姿	保育者の関わり・援助*・保育者の思い 環境構成◇
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者に子どもから好きな絵本を持ってきて読んでもらうことを喜び姿が見られるようになってきた。手遊びや歌も楽しんでいる。</li> <li>友達のすることをよく見ていて、同じ場で同じことをして遊ぶようになって、物の取り合いも見られるようになってきた。</li> <li>保育者や2歳児の真似をしたり、興味をもったもので遊んだりしていた。2歳児が保育者の真似をして、1歳児を引っ張ってくれた。</li> <li>異年齢児が同じ場で一緒に運動会ごっこを楽しむ姿が見られた。</li> <li>年上児の遊ぶ姿をよく見ていて、真似をして、どんぐりに色を塗ったり、タペストリーを作ったりしていた。</li> <li>年上児がどんぐりを削ってくれたり声をかけてくれたりしていた。</li> <li>いろいろな保育者と関わり、担任がいなくても遊ぶ姿が見られた。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしい。</p> </div> <p>◇玩具や材料を多めに用意するようにした。 *同じ場で遊んでいる時は見守り、トラブルにならないよう仲立ちしていった。</p> <p>◇2歳児と一緒に遊ぶ機会を作った。 *安心して遊べるように一人一人に応じた援助をした。保育者が一緒に遊びながら、友達の様子を知らせたり、関わるきっかけを作ったりした。</p> <p>◇運動会ごっこができるよう運動会の用具や手具を用意する。 *保育者が積極的に遊びに参加し、子どもの興味を引き出していった。</p> <p>◇クラスで自然物を使ってタペストリー作りをし、戸外でも興味をもてるようにした。 *保育者が積極的に遊びに参加したり、年上児の姿を伝えたりして、興味をもてるようにした。 *子どものやりたいという気持ちを受け止めながら、一緒に遊んだり援助したりして楽しめるようにした。</p>

【考察・課題】

- 担任との信頼関係ができたことで、安心して過ごすことができ、行動範囲が広がっていった。全職員が自分のクラスの子どもだけではなく、全園児を保育しているという意識があることで、見守られているという安心感をもち、子どもたちがのびのびとしたい遊びができたのではないかな。
- 子どもの気持ちに寄り添い保育してきたことで、保育者のしていることに興味をもち、自分からやってみようとする姿が見られたのではないかな。(言葉を話さない子でも行動で気持ちを伝えている。)
- 遊ぶ中で、0・1歳児から年上児に関わる姿はなかなか見られないが、年上児が声を掛けてくれたり、面倒を見てくれたりする姿が見られた。異年齢児がかかわれる場を作るだけでなく、保育者が異年齢児と関わる姿を見せることが大切だと感じた。

## ● 1歳児の事例についての園内での意見交換

保育者と一対一で関わる中で安心感を持って過ごせていると思う。担任と信頼関係を築いていくことで、他児や異年齢児にも目が向き、安心して関わっているのだと思う。0.1歳児にとっての保育者の存在の大きさを感じた。

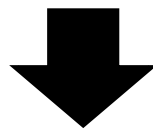
子ども達の発達や興味関心に応じて環境を整え、丁寧な関わりの中で、子ども達が安心して自分のやってみたいことにのびのび取り組むことができている。安心できる保育者の見守りを感じ、それを基地にして遊びの楽しさを味わえていると感じた。

年上の子の真似をしている分、遊ぶ内容によっては0.1歳では危険が伴うこともある。一緒に遊ぶ保育者、見守る保育者など担任同士で連携をとることが大切だと感じた。

0.1歳児は保育者との信頼関係がとても大切だと改めて感じた。大好きな先生と同じ場で遊ぶ中から友達をしていることにも目が向くようになってきたのではないかな。積極的に年上児と遊んだり、子どもたちが興味を持ちそうな玩具を用意したりと、環境作りにも工夫がみられ、その積み重ねから子どもたちがのびのびと遊べるようになったのだと感じた。

保育者が率先して遊びに加わることで、子どもたちも興味を示して安心して取り組めると思った。

戸外でも自然と異年齢児との交流が持っていて良いと思う。



## ● 意見交換をしたことで見えてきたこと

- ・ 0、1歳児にとっては安心、信頼できる保育者の存在が何より大切。
- ・ 安心して過ごせるようになることで、周りの友達存在に気が付き、目が向くようになる。
- ・ 保育者が率先していろいろな人や遊びに、ものに関わり、子どもたちが興味をもつきっかけを作っていく。

◎活動の経過

- ・今まで一人遊びが中心であったが、アイス屋さんごっこやスマホを使ってのやりとり等を経験し、少しずつ友達と同じ遊びをしたいという思いがでてきた。その分、玩具の取り合いやトラブルも増えてきたが、保育者が仲立ちをすることで子ども同士をつなぐきっかけとなり、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしている。
- ・幼児組で遊んだ際、お医者さんごっこの玩具を見つけると「使いたい!」「これ注射でしょ?」とすぐに遊び始めていた子ども達。お医者さんのイメージがあるのか、自然とやり取りが始まったため、室内遊びに取り入れてみた。

<p>子どもの姿</p>	<p>保育者の関わり・援助*・保育者の思い <input type="checkbox"/></p> <p>環境構成◇</p>
<p>・お医者さんの玩具を目にすると、新しい玩具に喜び方が多く、人形を相手に注射をしたり熱を測ったりして遊び始めた。</p> <div data-bbox="97 584 459 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一人で自由に玩具を使って楽しんでいます。 〔子ども対人形のやりとりが中心〕</p> </div>  <p>・聴診器や白衣を取り入れたことで、ごっこ遊びに広がりが出てきた。聴診器をお腹や背中に当てる動作は、子どもの中でイメージしやすく「お腹出してください」と友達とのやり取りが増えてきた。</p> <p>・保育者も患者になりきり一緒に遊ぶことで、保育者を通して友達との関わりを楽しんだり、玩具の貸し借りをしたりする姿がみられた。</p> <div data-bbox="97 1032 778 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大変!熱があるよー! お医者さ〜ん!こっちこっち〜</p> </div> <div data-bbox="97 1205 512 1301" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>は〜い!お待たせしました。 どこが痛いですか〜</p> </div> <div data-bbox="97 1339 794 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>遊びをくり返しやる中で・・・ 保育者対子ども→子ども対子どものやり取りが増え、保育者が入らなくても自分の思いを伝えながら遊べる姿が少しずつみられるようになった。</p> </div> <div data-bbox="97 1480 663 1576" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>痛いところはここですか? 貼りますよ〜</p> </div> <div data-bbox="97 1585 1331 1711" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>保育者が用意した絆創膏ではなく、ボタンつなぎの玩具を子どもが取り入れて、絆創膏代わりにしていました。(子ども自身で考えた発見です!)</p> </div>	<p>◇お医者さん用の玩具・ナースキャップ等をカゴに入れて取り出しやすくする。また、ベッドに見立てられるよう大型積み木やマットを敷いておく。</p>  <p>*子どもたちの遊びの様子を見守りながら、言葉のやり取りができるよう仲立ちしていく。</p> <div data-bbox="815 779 1461 891" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達と同じ遊びを楽しんでいるが、やり取りが広がっていかないな。友達と一緒に楽しめるアイテムが必要な・・・</p> </div> <p>◇聴診器や白衣、ばんそうこう、冷えピタ等を順次用意して遊びに取り入れていく。</p>  <p>*患者や医者になりきって遊ぶことで、ごっこ遊びの面白さや友達も一緒に遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。</p> <div data-bbox="815 1249 1461 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達と同じ衣装を身に付けて楽しんでいます。スマホを使って医者を呼び出す時も・・・なんでも真似する男児です。</p> </div> <p>*子ども同士で遊びが盛り上がっている時には、そばで見守りながら楽しさに共感していく。言葉でうまく伝えられない時もあるので、代弁しながら必要な言葉を知らせていく。</p>

【考察・課題】

- ・保育者が子どもの姿を予想し、場を設定したり玩具を用意したりすることで、子どもの遊び方にも広がりがみられた。初めて遊ぶもの、見たものには興味を示す子が多い中、その遊びを継続することの難しさがある。そのため保育者が一緒に遊ぶことで「この遊び楽しいな」「〇〇ちゃんと同じもので遊びたい」等と感ぜられるようにした。初めのうちは医者になりきる子が多かったが、くり返し遊ぶ中で自然とお医者さん役や人形のお母さん役等、なりきるものが分かれてきた。保育者がいる安心感から友達と一緒に遊ぶことの楽しさを感じられるようになってきたのではないかなと思う。
- ・全体的には友達との関わりが増え、自分から友達の名前を呼んで遊ぼうとする姿がみられるが、遊び方には個人差が大きく、思い通りに遊びが進まずトラブルもあった。低月齢児は、真似をして楽しむことから遊びに加わり、高月齢児と遊ぼうとしているので、引き続き友達同士をつなげられるよう仲立ちするとともに、子ども一人一人が楽しいと思える遊びや興味を見つけ、楽しさを共有できる空間作りを心掛け、環境の再構成をしていきたい。

## ● 2歳児の事例についての園内での意見交換

遊びの中でこどもたちから「〇〇したい…」「〇〇が欲しい…」という声が聞こえてきて、その都度手作り玩具など用意をされていて良いと思った。一気に出すのではなく、少しずつ子ども達の声から付け足していくのが良いと思った。

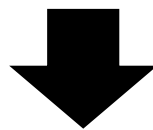
子どもたちが医者になりきれアイテムをタイミングよく、遊びの段階に応じて用意していったことで継続して楽しむことができたのだと思った。保育者も仲間の一員となってやりとりを見せたり、一緒に楽しんだりする姿から子どもたちも安心して取り組めたのだと思う。

場の設定や子どもがイメージを共有できるごっこ遊びに必要なものを用意することが2歳児には必要であると感じた。様々なものが用意されていてよかった。

子どもたちが興味を示したことに敏感に着目し、さらにイメージを広げて遊べるような環境を整えていたことから、保育者の熱意が感じられた。

3歳児のお医者さんごっこに加わるのも交流が広がりよかったのかも。

友達のしていることに関心を持ち一緒に遊ぶ中で、思い通りにならなくて怒ったり、物の取り合いになったりとトラブルもあるが、その体験の中で人との関わりを学んでいるのだと思う。








## ● 意見交換をしたことで見えてきたこと

- 2歳児にとっては保育者がモデルとなったり、友達とのやりとりを仲立ちしたりしていくことが大切。
- 子どもの興味を敏感に感じ取り、遊びの場を設定したり、イメージを共有できる玩具をタイミングよく用意したりしていく。
- 自分の思いを通そうと奇声を発したり、手が出たりする姿もある。子どもの思いを受け止めながら仲立ちをしていく必要がある。

《3歳児》 時期 8月/10月下旬 「大型積木でのごっこ遊び」

◎活動の経過

- ・4月当初から廊下にある広いスペースも遊びの場として活用しており、ままごとやダンボールを使ったお家ごっこなど、様々なごっこ遊びを楽しんできた。8月頃よりコーナーを見直し、ままごとコーナーの隣に大型積木を出していく。初めは自分だけで積み上げたり、2名から3名でご飯を食べるカウンターにしたりと少人数で遊んでいたが、日々遊んでいく中で少しずつ人数が増え、みんなで一つのものを作ったり、色々なものに見立ててごっこ遊びに取り入れたりする姿が見られるようになってきた。

子どもの姿	保育者の関わり・援助*・保育者の思い 環境構成◇
<p>積木を組み合わせて何かを作ろうとしている男児数名。</p> <p>「みんなで乗るバスを作っているんだよ！」 「ここにも積木持ってきて！大きいやつがいいな～」 「わかった！待ってて！ 緑のやつがいいかな？」</p>  <p>「できたー！ みんな乗ってもいいよ！」</p>  <p>「バスにのって～♪」 「線路の曲もかけて！」</p>  <p>バスに乗るだけでなく、 音楽をかける係をやりたいという子もいた。</p>	<p>「すごい大きいね！何を作っているの？」 「そーなんだね！こんなに大きかったらお友達みんなが乗れそう！いいね！」</p> <p>*子どもたちで何となくイメージを持って作っている様子。あまり口は出さずに見守っていく。</p> <p>せっかくみんなで作ったバス。友達と一緒に楽しいと思えるような雰囲気作りをしたいな。</p> <p>◇CDラジカセといくつかの童謡CDを用意する。 *バスごっこの音楽や子ども達の聞きたい曲をかけていく。 *保育者も一緒にバスに乗ったり、音楽をかけたりしながら仲間の一員となっていた。</p> <p>バスに乗らなくてもCD係をやることで友達と同じ場で遊べる子もいた。これも関わり合いの一つだな。</p>
<p>お医者さんごっこを楽しんでいる子どもたち。 積木をベッドにしたり、患者さん用の枕にしたり、見立てて遊ぶのが上手になってきている。</p> <p>「痛いところはありませんか？」 「次の方どうぞー」</p>  <p>お医者さんと患者さんに自然と役割が分かれて遊んでいる。</p>  <p>お医者さんの鏡や聴診器を作り始めると「作りたい」とほとんどの子が作り、よりなりきって遊ぶ姿が見られた。</p>	<p>◇ままごとコーナーでお医者さんになりきって遊ぶ姿が見られたので、注射器や体温計などのお医者さんセットを出していく。</p> <p>*保育者も患者や医者になりきりながら、言葉のやりとりの見本を見せていく。</p> <p>元からある玩具だけでなく、身につけて遊べるお医者さんの鏡や聴診器があれば、よりイメージを持って遊べそう！</p> <p>◇子どもたちと一緒に作れるよう、画用紙やペットボトルキャップなど身近な材料を用意する。作ったらすぐに遊び出せるよう、作るコーナーを廊下に設定する。</p>

【考察・課題】

- ・様々なものに見立てたり、変化させたりできる大型積木だからこそ、いろいろなごっこ遊びに繋がっていったのだと思う。子どもたちから出たつぶやきやイメージを受け止め、保育者も仲間となって一緒に遊んでいくことで、普段別の遊びをしている子も興味を持ち、安心して参加する姿が見られた。この大型積木での遊びを経験したことで、戸外でもごっこ遊びをしたり、まとまって遊んだりする姿が見られるようになった。改めて3歳児にとって保育者の存在の大きさを感じた。
- ・子どもたちだけで楽しんでいる時は見守ることも心掛けた。あったらより楽しめそうだなと新たなアイテムを提案したり、一緒に作ったりするタイミングを見極める難しさも感じた。
- ・数に限りがある積木なので、一つの積木を取り合ったり、友達が使っていた積木を勝手に取ったりしてトラブルになることもあった。その際は「貸して」「終わったら貸すね」など貸し借りに必要な言葉を知らせていきながら、やりとりの仲立ちをしていった。十分な数がないからこそ、友達と一緒に何かを作ったり、貸し借りをしたり、自分の気持ちに折り合いをつけたりする経験ができたのだと思った。言葉より先に手が出てしまうことが多いので、少しずつ自分の気持ちを言葉で伝えていけるように、やりとりの橋渡しをしていきたい。



## ● 3歳児の事例についての園内での意見交換

バスごっこの関わりを経験したからこそ、その後のお医者さんごっこでもやりとりが広がったのではないかな。子どもから出たつぶやきやイメージを大切に受け止め、環境作りをしたことも良かったと思う。

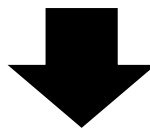
バスごっこは友達をつなぐきっかけの一つになったのではないかな。友達と遊びたいと思っていても、うまく表現できない子、仲間に入れない子もいると思う。そんな時に保育者がいることは、子どもにとっても安心感を持って遊びに加わる事ができ、一緒に遊ぶ楽しさを感じられたのではないかなと思う。

廊下にあるコーナーだったので、乳児との関わりやすかったり、遊びに入りやすかったりした。コーナーが充実していて良かったと思う。廊下のコーナーが体を動かせるスペースであったり、大型積木を置いて作れるコーナーになっていたり子どもに姿に応じて対応してよかった。

廊下の環境作りは様々な変化があり、子どもたちの遊びや保育者の思いが伝わってきて良いと思った。ただ、ソフト積木を狭いコーナーで積み上げ、子ども達が乗っているのには危険を感じた。もっと広い場所・保育者の目が行き届いた場所での環境作りが良かったのではないかな。もっと遊びが広がったかも。

保育者の援助のタイミングを見極めるのは難しいが、よく見ているからこそ、子ども達同士の関わり合いの遊びが盛り上がっていると感じた。

3歳児になると十分な数がないことで、友達との関わり合いや言葉のやりとりにつながることを改めて感じた。



## ● 意見交換をしたことで見えてきたこと

- ・保育者がどれくらい遊びに加わるのか、見守るのか、援助のタイミングを見極めることが大切。
- ・安全に配慮し、安心して遊べる環境作りをしていく。
- ・遊びに必要な玩具を保育者が用意するだけでなく、子ども達と一緒に作っていき、意欲的に取り組めるようにする。

◎活動の経過

・子どもたちの三つ編みを使ったキャンディ屋さんから始まり、おまつりごっこ、ケーキ屋さんごっこ等、様々なごっこ遊びを経験してきました。子どもたちから『お店屋さんをしよう』と友達と一緒に考えたり、協力したりして小さい組さんを招待して遊んできた遊びで様々なかかわりが芽生えていました。しかし保育者が手をかけすぎてしまっていたので、ごっこ遊びへの援助の仕方を変えてみたところ、子どもたちの遊びにも変化が見られました。

子どもの姿	保育者の関わり・援助*・保育者の思い <input type="text"/> 環境構成◇
<p>「このキャンディでお店屋さんしない？」 「いいね！いっぱい作ろう！」</p> <p>「先生！私もキャンディ作りたい。どう作るの～？」</p> <p>「三つ編み作ったら、こうやって貼るんだよ」 「こう～？」 「そうだよ！もっと作ろ～！！」</p> <p>最初は仲良しの友達（小グループ）だけだったが、興味を持った子がどんどん増えてきて、いろいろな子が取り組んでいました。</p>  <p>「小さい組さん呼びに行こう」 お店屋さんごっこを終えて… 「楽しかったね～！！」「またやりたい」</p>	<p>・お店屋さん準備できたら、小さい組さんも招待する？</p> <p>「〇〇ちゃんがね、作るの上手だから作り方聞いてみよう」</p> <p>普段はあまり関わらない友達だけど、ここで一緒に遊べたら楽しいだろうな…この遊びで関わりが広がらないかな？</p> <p>「キャンディ屋さんするのに、お店さんの服作ってみる？」 「あとは、何がいるかな～？」 *遊びの気持ちが盛り上がるようにエプロン・カチューシャを用意する。 ◇廊下にテーブルを出し、他のクラスに招待に行けるようにした。</p>
<p>「わ～ケーキ出来上がったの!？」 「ケーキ屋さんしない？」 「いいよ～！私お店屋さんね～」 「ケーキ乗せるお皿がないね…」 「(廃材の空き箱をもって) これいいんじゃない？」 「いいね!」「いらっしゃいませ～ケーキいかがですか？」 「100円です！ここで食べてね。」</p> <p>自然と子どもたちが集まってきて、男女いろいろな子達で毎日盛り上がって遊んでいます。</p>  	<p>◇ドライフラワー・どんぐりを使ってケーキを作れるようコーナーを設定する。 *このケーキでどんな遊びをするかな？「何に使う？」と投げかけてしまうことが多いから、子ども達がどう使うか、あえて何も聞かず、ままごとコーナーに置いてみよう。</p> <p>「このケーキ1つください。いくらですか？」</p> <p>いつも遊びが盛り上がってほしいと思って、手をかけすぎてしまっていたな…子どもたちだけで考えて進めたほうが自然に友達も加わって楽しんでいるな。</p>

【考察・課題】

- ・ごっこ遊びとしてのきっかけとして行ったキャンディ屋さんでは、保育者も友達とのかかわりの橋渡しをしながら遊びを盛り上げていくことで、子ども達もお店屋さんごっこのようなごっこ遊びが「楽しい」「またやりたい」という良いきっかけになった。その後のおまつりごっこなど、保育者が遊びを盛り上げようとかなり援助したり、準備期間をかけてしまったりしたことで、遊びも短期間で終わってしまった。日頃の保育で保育者のこうなっしてほしい気持ちが強くなってしまふことで、子どもたちのやりたい気持ちが盛り下がってしまう。子どもたちの遊びのきっかけや、困っているときの援助の仕方でも大きく変わると思う。
- ・巡回指導を受け、今一度自分の援助の方法を考え直そうと思い、遊びの環境の設定に視点を変えると、11月のケーキ屋さんごっこは自分達で始め、クラスの子も多く参加し、とても盛り上がっている。
- ・自分達で遊ぶ楽しさが分かってきたが、遊びの進め方でトラブルになると、手が出たり、保育者に頼ったりする姿が多いので、自分の気持ちを言葉で伝えられるように援助していくことが今後の課題である。

## ● 4歳児の事例についての園内での意見交換

お店屋さんを招待してもらったことで他学年との交流の場となり、4歳児とのかかわりを楽しむ事ができた。3歳児にとっても、隣で様々なお店さんがオープンするので、遊びに行くことでたくさんの刺激をもらうことができた。

子どもたちの姿を予測しながら環境を整え、子どもたちに楽しい遊びの経験をさせたい保育者の思いが知らず知らずのうちに手をかけすぎていて、保育者主導のような形になってしまっていたということに気付いて援助のあり方を見直していこうという保育者の変化が今後よい方向へ進んでいくと思う。

保育者が良かれと思って援助したことが裏目に出ることがある。見た目や形はどうあれ、自分達で考え作り上げたものの方がよく遊ぶ。そのことに気付いたことはすごく良かったと思う。

保育者の「こうなって欲しい」「こうやって盛り上げて欲しい」という思いと、子どもたちの「やりたい!」「こうしたい!」という気持ちを合わせる難しさを感じた。短時間で次々と遊びが変わっていくのも4歳児ならではの姿だと思う。反省を生かして次はこうしてみようと手立てを変えていったことで、子どもたちの姿に変化が見られたのだと思う。

遊びの援助の難しさを感じた。保育者の願いとは違う方向に遊びが向くこともあるが、援助の仕方を変えたり子どもたちが興味を持ちそうな環境設定にしたりすることで、子どもたちの遊びにもまとまりがでてきたのではないかと。また、子どもたちが作ったものでどうやって遊ぶのか見守る保育者の姿も良かったと思う。

石井先生の指導を受け、保育者の援助の仕方を見直し、意識して保育にあたっているととても良い。

## ● 意見交換をしたことで見えてきたこと

- ・自分の保育を振り返り、援助の仕方を見直したり、意識を変えたりすることも必要。
- ・保育者が手をかけすぎずに、子どもたちがどう遊ぶか見守ることで、自分達で遊びを進めていく楽しさを感じられるようになっていく。
- ・廊下でお店さんをオープンしたことで、異年齢児との交流の場になった。

◎活動の経過

・男児12名、女児5名の計17名のクラスである。支援を必要とする児童が多く、幼い言動が見られることが多い。鬼遊び等の集団かつルールのある遊びでは、自分だけのルールを勝手に作り、ルールを守らないことがあり、周囲の子が怒鳴ったり、相手を叩いたりしてしまい、遊びが崩壊することが多かった。その都度保育者が気持ちの伝え方を知らせたり、話し合いの場を持ってきたりした。

子どもの姿	保育者の関わり・援助*・保育者の思い 環境構成◇
<p>(5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A男「鬼ごっこしよー！」 クラスの子供が集まり、ピーナッツ鬼をすることとなった。</li> <li>・A男「誰が鬼やるの！みんな聞いてよ！ねえ！」 発案者のA男が鬼を決めようと呼びかけるが、ほとんどの子が聞いておらず、B男とC男は勝手に鬼ごっこを始めた。</li> <li>・A男「何で勝手に始めるの！もう嫌い！」 A男は怒鳴り手を振り上げ、B男とC男を叩きに行った。</li> <li>・A男は落ち着き、鬼を決めていることを伝えた。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんで鬼を決めピーナッツ鬼が始まった。</li> <li>・C男が捕まっても鬼にならず逃げ続けトラブルとなった。</li> <li>・B男が捕まったが鬼にならず、A男と言い合いになった。</li> <li>・B男「だってやりたくないだもん！」</li> <li>・A男「そんなのするじゃん！」</li> <li>・B男「もういい！」 鬼をやりたくないB男とルールを守ってほしいA男の言い合いの末B男は怒って遊びを抜けてしまった。</li> <li>・B男抜きでピーナッツ鬼が再開したが、ルールを破る子が多くその度に怒鳴り合いとなって遊びを抜けていき遊びが壊れてしまった。</li> </ul> <p>(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外に出ると子ども達が集まり、氷鬼が始まった。</li> <li>・1学期2学期を通して、じゃんけんで鬼を決めてきたことで、じゃんけんで鬼を決めるようになった。</li> <li>・C男が捕まっても固まらず逃げ続け、周りの子に注意をされていた。</li> <li>・C男は周りに言われたことを受け止めその場で固まった。</li> <li>・小さなトラブルはあったが、自分達で話をし、解決していた。</li> <li>・保育者がいなくなるとルール違反を指摘されても聞かないふりをする子が多くなり、怒鳴り合いとなってしまった。 周りの子も遊びが停滞したことによりほかの遊びに移り、遊びが崩壊してしまった。</li> </ul>	<p>保育者の関わり・援助*・保育者の思い 環境構成◇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者も一緒に遊びに参加し、様子を見守った。 <u>集団遊びを通じて人と沢山関わってほしい。</u></li> <li>・A男がリーダーシップを発揮した姿を見守った。 <u>自分達で話し合い、鬼を決めていってほしい。</u></li> </ul> <p>*間に入り、A男の気持ちを伝えた。 T「A男くんずっと皆に鬼のこと聞いてるよ、きいてあげて？」 <u>相手の気持ちに気付けるようになってほしい。</u></p> <p>T「A男君も叩くんじゃなくて言葉で嫌だったことを伝えよう」 <u>暴力ではなく自分の気持ちを言葉にして伝えてほしい。</u></p> <p>*じゃんけんや鬼決め等の方法で鬼を決めてはどうかと提案した。 *子ども達を集め、ルールを再確認して遊びを再開した。 <u>ルールを明確にして共有すれば守って遊べるだろう。</u></p> <p>・B男に対し、ルールを守るよう伝えた。 <u>ルールを守って遊べるようになってほしい</u></p> <p>*ルールの大切さや守って遊ばないと楽しくないことを伝えて、話し合いの場を設けていった。 <u>自分だけで楽しければいいのではなく、友達とルールを守って遊ぶことの楽しさを感じてもらいたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者も一緒に遊びに参加し、事前にルールの確認を行って様子を見守った。</li> <li>・C男がどうするか見守った。 <u>保育者に言われなくても気持ちを抑えてルールを守ってほしい。</u></li> </ul> <p>T「気づけて偉かったねC男君」 *C男のことを褒め、認めていった。 <u>C男の行動がみんなの見本になるといいな。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達だけで遊びを進められていたので、少し離れ見守るようにしていった。 <u>自分達で話し合っってトラブルを解決し、遊びを進めていってほしい。</u></li> </ul>

【考察・課題】

- ・5月の時点では保育者がいても遊びが崩壊してしまった。集団遊びの経験不足だけでなく、自分の気持ちの伝え方や相手の気持ちを考えるとといった経験が少ないからであると考えた。
- ・うまく言葉にできずに話し合う前に手が出てしまうことに対し、保育者が気持ちを汲み取り伝え方を知らせたり、クラス内で話し合ったりする場を設け人の話を聞く時間を作ってきた。進級当初に比べ手が出る回数は減ってきたが、かっとなると抑えられなくなってしまうことがあるため、引き続きの援助が必要である。
- ・12月になり保育者も入れて集団遊びで遊ぶことが多くなった。1学期2学期を通して経験を積んできたことにより、友達に指摘されても怒らずルールを守って遊べるようになってきている。しかし、保育者がいなくなると自分の気持ちを抑えきれなくなってしまう。保育者の目があるからルールを守っているという部分があり、友達の思いを理解しているとは言えない状況であるため今後は保育者がいなくても遊びが成り立つよう援助していく必要がある。

## ● 5歳児の事例についての園内での意見交換

友達と一緒に遊びたい気持ちはある。だけど負けたら恥ずかしい、捕まったらかっこ悪いといったマイナスの感情が強く、自己肯定感が低いことも集団遊びが成り立たないひとつの要因なのではないかと感じた。

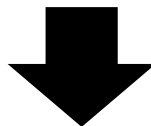
自分の気持ちだけ押し通そうとしたり、思うようにいかないと途中で抜けてしまったりする姿が見られるが、くり返し集団遊びを行い子ども達の気持ちをくみ取り伝え方を知らせたことで、子どもたちの姿が変わってきた。子どもたちの話し合いの場は必要だと思う。

個性の強い年長児なので、集団になるとまとまらず試行錯誤している様子が伝わってきた。年長児だから自分達でやって欲しい、進めて欲しいという思いが強くなってしまいが、まだその段階じゃないと感じたら、保育者も仲間の一員となってまずは楽しい気持ちをみんなと共有できると良いのでは。

同じ集団遊びの場面だが5月頃と今では子どもたちに大きな変化が感じられる。友だちと遊ぶ楽しさは知っているし、みんなでやり遂げた達成感も味わってきた。自分はどうしたらいいのか、子どもが自分で考えるようにしながら、一人一人の思いを受け止め、小さな積み重ねを続けていくのがいいのではないかと思う。

ルールを守って欲しいという言葉が多かったが、様々なトラブルの中で育てていくこともあるので、高いところに目標をおかすに見守ることも一つではないか。

トラブルになった時に自分の思いを受け止めてもらう保育者の存在がとても大切であると感じた。



## ● 意見交換をしたことで見えてきたこと

- 一人一人の特性を捉え、頑張りを認めたり、思いを受け止めたりして、自信につなげていく。
- 話し合いの場を意識して作っていくことで、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを受け止めたりする経験を重ねていく。
- 保育者の思いもあるが、子どもたちの姿や遊びの様子に応じて、かかわり方を見直し、援助の方法を探っていくことが必要。

## ●第2回巡回指導を受けて

- ・3歳児が空箱製作を楽しむ中で、友達と関わりあって遊ぶ姿が見られた。石井先生から助言をいただき、翌日以降も夢中になって遊んでいたため、事例を作成し、職員間で共有していった。

子どもの姿	保育者の関わり・援助*・保育者の思い 環境構成◇
<p>11月から継続して空箱製作を楽しんでいる子どもたち。たくさんある箱の中から好きな大きさ・形の箱を選び、セロテープやビニールテープ、ガムテープを使って思い思いの作品を作っている。</p> <p>「かいじゅうにしようかな〜」 「飛行機を作っているんだ！」</p>  <p>「ガムテープが切れない！」 「先生！ここ押さえてて！」</p>  <p>作りたいもののイメージがあり、困ったときは保育者や友達を頼りながら作り上げようとする姿が見られる。</p>  <p>テラスでも続きを作ったり、壊れたら修理したりしている。</p> <p>A男「築山に持って行く！」</p>  <p>作ったものを築山で滑らせて遊んでいるA男の姿を見ている子どもたち。</p> <p>「A男と同じやつ作りたい！」</p>  <p>A男の姿から刺激を受け、保育者と一緒に机や材料を運び、築山の隣で作り始める。</p>  <p>A男と同じもの作り、満足げに一緒に築山を滑らせたり、園庭を散歩したりする子どもたち。</p>  <p>「一緒に砂場まで行こう！」 「ぐるっと回っていこ〜」 思う存分散歩を楽しんでいた。</p>  <p>「明日も遊びたい！」と外に飾っておくと、廊下から風で飛んでいないか様子を見たり、翌日もここから持って行き、散歩したりして楽しんでいた。</p> 	<p>◇室内遊びで設定している製作コーナー。今日はいつも以上に製作遊びをする子どもが多くいたので、机の台数を増やし、広いスペースで取り組めるようにする。</p> <p>「どんなものができるのかな？」 「大きくてかっこいいね！」</p> <p>*子どもが自分なりのイメージを持って作っている姿を受け止めていく。</p> <p>*ガムテープは扱いに慣れていないので、切り方を教えたり、手を添えて一緒に切ったりしていく。</p> <p>◇戸外でも続きができるようテラスに机を出す。壊れてしまった時に修理ができるような材料・道具も用意しておく。</p> <p>*修理をしながら作り上げた嬉しさに共感し、A男と一緒に築山に行き、うまく滑るか見守っていく。</p> <p>「がんばれー！いい調子！」「すごいね！」</p> <p>*見に来た周りの子どもたちにもA男が修理を頑張ったことを伝えたり、一緒に応援したりしていく。</p> <div data-bbox="874 1128 1497 1218" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「作りたい！」という気持ちを大切にしたい。テラスに机を出しているから、そこで作る？</p> </div> <p>*石井先生の助言もあり、思い切って机や空箱製作の材料を築山の隣に持ってくる。</p> <p>*『同じものを作りたい』『一緒に遊びたい』という気持ちを受け止め、イメージを聞いたり、難しい部分は手伝ったりしていく。</p> <div data-bbox="868 1420 1501 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子どもたちの意欲がすごい！作ったものですぐに遊び出せる環境が、こんなにも子どもたちの心を動かすんだな。</p> </div> <p>*翌日も遊べるように、テラスに出したベンチの上に飾っておくことを提案する。</p> <p>◇この日は風が強かったので、子どもと一緒に風や雨がしのげる場所を探して、保育室前の廊下からも様子が見える場所に置いておくことにする。</p>

### 【石井先生の助言を受けての考察・課題】

- ・第1回巡回指導の反省から室内に製作遊びができるコーナーを設定したり、様々な素材や材料を取り入れたりして、子どもたちが自由に表現できるような工夫をしてきた。子どものイメージを大切に、作ってあげるのではなく『どうしたら作れるか』を一緒に考えたり、試したりすることを意識して援助してきたことで、『自分で作れた！』という嬉しさを感じながら、のびのびと製作遊びを楽しむ姿が見られるようになった。
- ・テラスではなく、築山の隣に机を設定したことで、作ってすぐに遊び出せる環境ができ、子どもたちの意欲につながっていた。子どもの興味や関心に沿って、環境の再構成をしていく大切さを改めて感じた。また、「明日も遊びたい」と思えるような片付け場所の工夫も保育者が意識しなければいけないと思った。
- ・子どもたちが作る手伝いだけでなく、空箱を長くつなげてみたり、子どもたち以上にかっこいいものを作ったりして保育者がモデルになっていく援助も大切であることを学んだ。明日からの保育にいかしていきたい。

●各年齢での研究の成果と今後の課題

	成果	今後の課題
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者とのふれあい遊びや絵本の読み聞かせ、ままごとなどのやりとりを通して楽しさを共有したことで、保育者と関わる楽しさを感じていた。個人差はあるが、少しずつ友達に目が向くようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場の設定や遊びの工夫をするだけでなく、子どもたちが人と関わる楽しさを感じられるよう保育者がモデルになるようにしていく。</li> <li>もも組は年齢差や個人差も大きいので、一人一人が興味を持っていることを探り、その子の理解を深め、十分にやりたい遊びを楽しめるように環境を設定していきたい。保育者が丁寧にに関わり、一緒に遊びながら、友達と関わる楽しさを感じられるよう援助の工夫をしていきたい。</li> </ul>
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と関わる場や遊びを設定し、保育者がきっかけ作りや仲立ちをしたことで、友達と関わる楽しさを感じられるようになった。また、遊びを通していろいろな保育者や異年齢児と関わりを持つことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と同じ場で遊ぶ中で言葉のやりとりも増えてきたが、言葉で表現できない場面も多く、奇声を発したり手が出たりする姿が見られるので、一人一人の発達に応じて関わり方を知らせていく。</li> <li>保育者との関わりを求め、友達とトラブルになることも多かった。子どもとじっくり会話をする時間を取り、気持ちの安定を図れるようにしたい。</li> <li>幼児組と関わる機会を増やせるように保育者が仲立ちをしながら一緒に遊べる場を設けていく。</li> </ul>
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者とのつながりを通して信頼関係を築いてきたことで、自分から好きな遊びを見つけたり身の回りのことにも意欲的に行動したりするようになった。</li> <li>友達とのつながりが持てるように遊びの内容を工夫したり、子どもたちが興味を持ちそうなものを取り入れたりしたことで、友達と同じ遊びをする機会が増え、言葉のやりとりへとつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と同じ場で遊ぶ中で言葉のやりとりも増えてきたが、言葉で表現できない場面も多く、奇声を発したり手が出たりする姿が見られるので、一人一人の発達に応じて関わり方を知らせていく。</li> <li>保育者との関わりを求め、友達とトラブルになることも多かった。子どもとじっくり会話をする時間を取り、気持ちの安定を図れるようにしたい。</li> <li>幼児組と関わる機会を増やせるように保育者が仲立ちをしながら一緒に遊べる場を設けていく。</li> </ul>
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人と丁寧にに関わり信頼関係を築いてきたことで、安心して過ごしながら、自分の好きな遊びにじっくりと取り組めるようになった。</li> <li>廊下のコーナーを活用したり、子どものつぶやきを拾って遊びにつなげたりすることで様々な遊びが経験できた。ごっこ遊びでは友達と一緒に役になりきったり、言葉でのやりとりを楽しんだりする姿が見られ、友達と一緒に遊ぶ楽しさや面白さを感じられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスでの遊びは廊下のスペースも使い、様々な遊びを経験する中で友達同士の関わりが増えてきたが、異年齢児との交流が少なかった。保育者が積極的に行き来したり、遊びの交流・共通の遊びの場の設定を計画したりしていきたい。</li> <li>1号認定の子同士は午後も一緒に過ごすため仲が深まりやすかったが、安心感から午前中も一緒に過ごすことが多く、2号認定の子達との関係作りに時間を要した。保育者が一緒に遊んだり、やりとりをつないだりしていく配慮が必要である。</li> </ul>
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な遊びが経験できる場を設定し「遊びがこうなってほしい」より「どう友達と伝えあっているだろう、考えられているだろう」と視点を改めてかかわってきたことで、遊びの中で子どもたち自ら様々な友達と思いを伝え合いながらじっくりと遊べるようになってきた。</li> <li>一人一人が遊びの中で、友達と楽しむというようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じクラス内での遊びや人とのつながりはだいぶ深まり、兄弟が多いことから年下児とは自然に交流することができていたが、年長児と一緒に遊ぶ異年齢での交流が少なかった。テラスに全学年共通の遊びを出したが、それだけではつながりの発展にならなかった。保育者間で連携を取り合い、意識して場を設定したり、保育者がすすんで関わったりしていきたい。</li> </ul>
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めは自分の気持ちだけを通そうとしたり、相手の気持ちを考えたり、受け入れたりすることが難しかったが、集団遊びの経験を重ね、保育者が相手の気持ちを伝えていったりしたことで、友達の気持ちを受け止め、みんなで話し合っただけで遊ぶことを楽しめるようになった。</li> <li>発表会に向けた活動を通して、みんなで協力し合い作り上げる楽しさを味わうことができた。</li> <li>何か大きなことをしようとするよりも、小さな成功体験の積み重ねが子どもの成長には必要ということを感じることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで遊んでほしい、友達の気持ちに気付いてほしいという思いが先走りすぎ、その子なりの成長を認めてあげられていなかった。保育者が一人一人の姿を受け止め、認めていく必要がある。</li> <li>5歳児の発達段階を意識し過ぎて、声掛けが多すぎてしまうところがあったので、相手の気持ちを考える時間を作っていけるようにしたい。</li> <li>自分の意見を通そうとすることが多かったため、「年長さんが入ってくると遊びがこわされてしまう」と言われることがあり、異年齢児の遊びが上手くいかなかった。遊ぶ相手の気持ちに気付いて一緒に遊べるようにしていきたい。</li> </ul>

### 【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの最善の利益の考慮</li> <li>●組織としての基盤の整備</li> <li>●社会的責任の遂行</li> <li>●健康及び安全の管理</li> <li>●職員の資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より保育所から認定こども園に転換した。認定区分により在園時間や日数が異なるが、遊びの連続性や体験差に配慮し、どの子にも豊かな教育・保育が受けられる場となるようにした。又、これまで幼稚園と保育所という異なった環境で勤務していた職員が、話し合いを重ねながら共通理解を深めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため、手洗い・消毒・マスク着用・食事の際のディスタンス・玩具や園舎内のこまめな消毒等できる限りの予防策を行ってきた。</li> </ul>
--	--

### 【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的な計画</li> <li>●指導計画</li> <li>●週日案</li> <li>●学級経営案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内共通カリキュラムを活用し、生活・遊びのあらゆる場面での体験が学びであることを理解して、子どもの思いや、興味関心に寄り添った活動が展開できるよう計画を作成した。しかし、具体的な指導の場面で、思ったように展開できなかった際の振り返りが出来ないまま過ぎてしまうこともあり、改善したい。</li> <li>・感染拡大防止の観点から年間計画に変更があったが、可能な範囲で子ども達がより多くの経験ができるよう計画を見直し、実施した。</li> </ul>
--	---

### 【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援</li> <li>●地域の保護者に対する子育て支援</li> <li>●地域における連携交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者参加の行事が中止となるが多かったが、園での様子を、送迎時に細やかに口頭で伝えたり、クラスボードやドキュメンテーションを作成し掲示することで知らせ、子ども達の成長を保護者と共有することができた。</li> <li>・感染拡大防止のため子育て支援及び地域交流はできなかったが、借用している畑で、来年度の交流に繋がる麦まきをさせてもらった。</li> </ul>
--	---

### ●研究のまとめ

今年度より保育所から認定こども園に転換した。幼児組では1号認定と2号認定が混在するクラスとなり、園で過ごす時間が異なる中でも、同じように生活や遊びを体験できるよう配慮して保育にあたってきた。また、保育所の職員と幼稚園から来た職員がいるため、園全体・担任間で様々な場面で話し合いを重ね、共通理解を図ってきた。

園内研究では、今年度は「遊びは学び～人とのつながりを通して～」というサブテーマに沿って、各年齢が人とのつながりを意識した遊びの場や環境を設定してきた。どの年齢でも、遊びたい、やってみたいと思えるような環境を整えることで子どもたちも自然と遊びへ入り込み、保育者や周りの友達との関わりが広がっていったように思う。また、人とのつながりを広げ、深めていくには、安心、信頼できる保育者の存在が不可欠であることを実感した。環境を設定するだけでなく、保育者も一緒に遊ぶ中で関わり方の見本を見せたり、やりとりの橋渡しをしたりする援助も必要であり、年齢に応じてどこまで保育者が遊びに加わるのか、どこで引くのかを考え、見極めていくことが大切だと感じた。

また、友達とのかかわりが増え、自分の気持ちを表現したり、言葉にして伝えたりできるようになってきたが、一方的に訴えたり、強い口調になったりする姿も見られた。遊びの中での様々な感情体験を大切に、相手の思いや考えも受け入れることができるよう援助していきたい。

各年齢の成果と課題では、異年齢児との交流が今後の課題として多くあがった。コロナ禍で密にならないような配慮も必要であり、この状況の中でどう異年齢児と交流を図っていくか、方法を探していきたい。

今後も園内研究を通して自分の保育を振り返り、職員間で共通理解をしながら、よりよい保育を目指していきたい。